

第三百八十二 前進行ニ於ケル後衛ハ縱隊指揮官ノ命令ニ依
リ少数ノ兵力ヲ以テ編組セラレ其任務左ノ如シ

(一) 縱隊背後ノ秩序ヲ監視ス

(二) 敵分遣隊ノ不意ノ襲撃ニ対シテ縱隊ノ背後ヲ掩護ス

第三百八十三 後衛ハ主力縱隊ノ後方約一露里ノ距離ニ於テ
進行シ乍候ヲ後方及側方ニ派遣スヘシ

第三百八十四 以上ニ列挙セル警戒方法ノ外主力縱隊指揮官
ハ縱隊前衛ノ掩護アリト虽モ尚ホ直接警戒ヲナス爲メ前方
及ヒ翼側外ニ行軍小哨(尖兵)ヲ派遣シ行軍小哨ヨリハ又
乍候ヲ派遣ス各縱隊間ノ距離遠大ナル時ハ西翼ニモ亦小哨
ヲ派遣ス

第三百八十五 前進行ニ方リテハ敵方ニ通スル縱隊間ニアル
道路ハ彼令其一ト雖モ無監視ノ俟放棄ス可カラズ

退却行ノ警戒

第三百八十六 退却行警戒ノ爲メ敵方ニ後衛ヲ出シ行進方向
ノ前方ニ前衛ヲ分派ス多数ノ兵力數箇ノ道路ニ據リテ行進
スルトキハ各縱隊ハ各々自ラ後衛及ヒ前衛ヲ派遣ス

第三百八十七 前衛ノ任務左ノ如シ

(一) 進路上ニ於テ遭遇スル有効ナル障碍ヲ排除ス

(二) 第一級輜重及ヒ主力縱隊ノ先頭ニ対スル敵分遣隊ノ急
襲ヲ撃退ス

前衛ハ少数ノ兵力ヲ以テ編成シ要スレハ工兵ヲ配属ス而
テ前衛ハ前方及ヒ側方ニ乍候ヲ派遣ス而テ前衛ノ距離ハ
道路修理ノ爲メ遠距離ニ之ヲ派遣スル必要ナキ時ハ前進
行ノ際ニ於ケル後衛ノ距離ト略同一トス

第三百八十八 退却行ニ於ケル後衛ハ主力ノ運動ヲ掩護シ敵

襲ニ際シテハ多数ノ兵力ヲ以テ主力ヲシテ行動ニ要スル時
間ノ餘裕ヲ得セシムル為メ敵ヲ抑留スヘシ

第三百八十九 後衛ハ多少持久戦ヲ為シ得ル為メ充分ナル兵
力及独立性ヲ保持セサル可カラズ故ニ後衛ハ前進行ニ於ケ
ル後衛ニ比シ概シテ優勢ナルヲ要ス又後衛ニハ敵ノ運動ヲ
阻止シ得ヘキ有カナル作業ヲ為スタメ工兵ヲ配属ス

第三百九十 後衛ノ距離ハ敵ヲ抑留スル為メ駐止スル毎ニ主
力縦隊ヨリ遠隔スルヲ以テ之レヲ一定スルコト能ハス總テ
ノ場合ニ於テ後衛ハ主力ヲシテ敵ノ砲火ヲ蒙ラシメサルヲ
以テ本旨トスヘシ

第三百九十一 後衛ハ自己ノ運動ヲ警戒シ且主力ノ掩護ヲ完
全ナラシムル為メ後方隊及ヒ側衛ヲ分遣ス而シテ之等ノ諸
部隊ハ任候ヲ敵方ニ派遣セル行軍小哨ニ依リ警戒セララル

モトトス

後方隊及ヒ側衛又ハ行軍小哨及ヒ任候ノ編組及ヒ距離ハ前
進行ノ為メ本令第三百七十八乃至第三百八十一ニ於テ規定
セラレタルモノニ合シ

第三百九十二 小數ノ兵力(歩兵聯隊騎兵旅団)ニヤリテハ
唯々後衛、行軍小哨及ヒ任候ニ依リ警戒セラレ更ニ小兵力
ノ部隊(一二大隊、騎兵聯隊)ニヤリテハ唯々小哨ト任候
ヲ以テ警戒セラレ中隊若シクハ騎兵中隊ハ單ニ任候ニ依リ
テノニ警戒セララル、モノトス

第三百九十三 以上列記セル警戒方法ノ外縦隊指揮官ハ尚本
令第三百八十四ノ規定ニ応シ後方及ヒ翼側ニ直接警戒ヲ派
遣スヘシ

側敵行ノ警戒

第三百九十四 側敵行ヲ安全ナラシムル為メ敵方ニ對シ側衛

ヲ派遣ス側衛ノ任務左ノ如シ

(一) 主カノ運動ヲ掩護ス

(二) 敵襲ノ場合ニアリテハ主カラシテ行動ノ準備ヲ整フルニ
必要ナル時間ノ餘裕ヲ得セシムル為メ敵ヲ抑留ス

主カ縱隊ノ長徑着シク大ナル中ハ往々敵箇ノ側衛ヲ同時ニ
又順次ニ派遣ス

第三百九十五 側衛ノ兵力及ヒ編組ハ退却行ニ於ケル後衛ノ

兵力ト全様ノ顧慮ヲ以テ定メラル (第三百八十九) 而テ最

近ノ主カ縱隊トノ距離ハ敵ノ遠近、縱隊ノ長徑及ヒ地形ニ依

リ異ナルモ敵ノ砲火ニ對シ我主カ縱隊ヲ安全ニ掩護スルヲ
要ス

第三百九十六 側衛ハ自己掩護ノ為メ先頭隊後方隊及ヒ側衛

ヲ分遣ス先頭隊及ヒ後方隊並ニ各側衛ハ各敵方ニ對シ行軍

小哨ヲ派遣シ小哨ヨリハ又行候ヲ派遣ス又等部隊ノ兵力編

組及ヒ距離ハ本令第三百七十八乃至第三百八十一ノ規定ニ
隨ヒ之ヲ定ム

第三百九十七 側衛ハ其派遣シタル諸部隊ト共ニ主カノ掩護

ニ任スルモノトス即ケ

(一) 自己ノ掩護部隊ト共ニ主カ縱隊ト並進シテ主カラ掩護ス

(二) 並進スルト共ニ側方ノ所要ナル地点ニ側衛隊ヲ派遣シテ

セテ台領シ主カノ通過ヲ安全ナラシムス如ク派遣セ

ラレタル側衛隊ハ途中或ハ宿營ニ於テ側衛本隊ニ合スル
モノトス

第三百九十八 各主カ縱隊ハ自己ノ先頭及ヒ後尾ヲ直接掩護

スル為メ又敵ニ最モ近接セル縱隊ハ此外尚木側衛ノ方向ニ

対シ行軍小哨ヲ派遣シ行軍小哨ヨリハ又任候ヲ派遣ス

第三百九十九

側敵行ニ際シ独立總列トナレル輜重掩護ノ爲

×特種ノ掩護隊ヲ設ケラル此掩護隊ハ亦前方及ヒ後方ニ行

軍小哨ヲ派遣レ小哨ヨリハ任候ヲ派遣ス

行軍實施ノ特別警戒法

第四百

以上ニ列記セル行軍警戒方法ノ外尚左ノ如キ特種ノ

行軍警戒法ヲ適用スルコトヲ得其方法左ノ如シ

(イ)河川又ハ山取ニ並行シテ行軍ヲ實施スルニ當リ敵兵出現

ノ危険アリト豫想スル渡河点又ハ山中ノ鞍部ヲ占領ス(ロ)

行軍ヲ實施スル道路ノ側方ニ於テ所要ナル支撐点ヲ保持

スルヲ特別隊ヲ派遣ス(ハ)總隊ノ行進路上ニ於ケル渡河点

又ハ其他ノ緊要ナル隘路等ヲ占領スルヲ騎兵ヲ前方ニ

派遣ス

行軍命令

第四百一

行軍實施ノ命令ハ高級指揮官之ヲ附與スルモノト

ス

命令ニ於テ指示スヘキ事項左ノ如シ (附録第十一)

(一)敵情

(二)我隣接軍ノ情况

(三)行軍ノ目的

(四)各總隊ニ於ケル軍隊ノ区分各總隊指揮ノ任命、出發地点

出發時刻、行軍ノ経路境界線ノ通過及ヒ大休止ノ撤退時

刻並ニ若シ豫定ニ得ル時ハ宿營ノ地域ヲ指定ス

(五)總隊ニ騎兵配屬セラレサル時ハ其搜索方法

(六)要スレハ行軍ノ特種警戒方法

(七)連絡ノ方法

以境界線

(九) 第二級輜重ノ部署、縱隊ノ輜重ト共ニ行進スルトキハ其

總指揮官及ヒ掩護隊ノ任命

(十) 報告ノ送致先若シ規定レ得ラル、場合ニ在リテハ定期報

告

(十一) 高級指揮官ノ交代者

右ノ命令ニ基キ各縱隊ノ指揮官及ヒ其隸下ニ屬スル指揮官

ハ各自ノ命令ヲ附與ス (附録第十二)

(註) 本條第四項ノ時刻ハ主力縱隊ニ關スルモノトス
警戒部隊ノ勤務及ヒ指揮官ノ責務

第四百二 本令第三百三十一乃至第三百五十四及ヒ第三百七

十一乃至第三百九十九ノ規定ニ據ケタル責務ノ外各指揮官
ハ行軍ノ目的及狀況ニ準テ且ツ兩軍間ノ秩序ヲ保持スル

タメ有ユル方法ヲ講スヘシ

第四百三 高級指揮官ノ責務左ノ如シ

(一) 若シ豫メ敵ニ關スル情報ヲ蒐集シアラサルトキハ有ニル

方法ヲ以テ敵情ヲ蒐集ス

(二) 道路及ヒ其附近ノ地形ニ關スル情報ヲ蒐集ス而シテ為レ

得レハ道路ノ偵察ヲ命令ス

(三) 一縱隊トナリテ行進スルヲ要スルトキハ駐軍警戒ヨリ行

軍警戒ニ轉移スル順序ヲ定メ且ツ之レカ為メ適切ナル處

置テナス

(四) 軍隊ヲ各縱隊ニ區分シ且ツ正確ナル行軍ノ計算ヲ為ス

(五) 行軍命令ヲ附與ス

(六) 行軍間其目的及情況ニ応シ自己ノ所在地ヲ最モ緊要ナリ

ト認ムル箇所ニ定ム敵ト遭遇スヘキ豫想アルトキハ砲兵

指揮官ノ高級者ヲ自己ノ側ニ位置セシムルヲ要ス
高級指揮官ハ時間ノ計算ニ依リ各縦隊ノ所在地ヲ知ルノミ
ナラス常ニ其現在ノ所在地ヲ知ラサル可カラス

第四百四 縦隊ノ各指揮官ハ高級指揮官ヨリ與ヘラレタル命
令ニ基キ軍隊及ヒ輜重ノ運動並其警戒方法ヲ詳細ニ規定セ
ル命令ヲ下スヘシ若シ高級指揮官ニ於テ駐軍警戒ヨリ行軍
警戒ニ転移スル順序又ハ敵搜索ニ関スル必要ナル時機ヲ規
定セラレカリレトキハ之等ノ處置ヲ為スヲ要ス

縦隊指揮官ハ隣接軍トノ連絡ヲ保持シ (第五十第五十四及
ヒ第六十五) 且ツ敵情著名ナル境界線ヘノ到達、大休止所
ヘ到着ノ時刻、宿營地到着時及一般ノ情况等ニ関スル報告
ヲ送致スヘシ
行軍間縦隊指揮官ハ第三百二十八第七項ニ準シ必要ト認メ

タル地点ニ位置スヘシ

第四百五 縦隊主カノ指揮官ハ行軍序列ニ入ル為メ出發点ヲ
通過スル主力部隊ノ行進順序及ヒ縦隊ノ直接警戒 (第三百
八十四第三百九十三及ヒ第三百九十八) 部署ニ関スル命令
ヲ下シ行軍中ハ必要ト認ムル地点及ヒ混雜ノ虞レアル場所
(渡河場、行進交叉等ノ時)ニ位置スヘシ若シ要スレハ渡
河点ニ衛兵又ハ人夫ヲ派遣シ又住民地通過ノ際ハ衛生部員
及ヒ任候ヲ派遣スヘシ

第四百六 前進行ニアリテハ前衛司令官ハ先頭隊 (前兵) 及
ヒ側衛ノ兵力編組並其経路ヲ定メ且指定セラレタル時刻ニ
遅ル、コトナク前衛ヲ出發セシムル如ク此等ノ部隊ヲ派遣
スヘシ

行軍中ニ於ケル前衛司令官ノ責務左ノ如シ

(一) 道路ノ修理ヲ行ヒ且ツ主カノ運動ヲ遲滯セシムル統テノ
障碍ヲ排除ス

(二) 敵情及ヒ前面ノ地形ニ関スル情報ヲ蒐集ス

(三) 途上總テノ通信ヲ押収ス

(四) 敵方ニ於テ認メタル一切ノ事項、駐止ノ件、大休止所及
ヒ宿營地到着ノ件ニ就キ前衛派遣ノ指揮官ニ報告ス

第四百七 敵ヲ察見セル際前衛司令官ノ探ルヘキ責務左ノ如
シ

(一) 出来得ル限り正確ニ其ノ兵力、編組、配置又ハ運動ノ方
向ヲ詳ニス

(二) 情況ニ依リ敵ヲ攻撃シ或ハ主カノ展開ヲ掩護ス

宿營及大休止ニ於テハ縱隊指揮官ノ指定セル地域ニ自己ノ
軍隊ヲ配置シ可成敵眼ヲ遮蔽シ且ツ敵ノ出現セル場合ニ方

リ前衛ノ動作ヲシテ支障ナカラシムヘシ若シ通過スヘキ隘
路ノ附近ニ於テ駐止スルトキハ前衛ハセシヨ通過シタル後
ニ駐止スヘシ

第四百八 先頭隊(前兵)及ヒ側衛ノ指揮官ハ行軍小哨(尖
兵)ノ數兵力及ヒ其編組ヲ定メ且其運動ノ方向ヲ指示スヘ
シ行軍間先頭隊長ハ前衛司令官ノ為メニ指示セラレタル責
務ヲ行ヒ側衛隊長ハ本令第四百九ノ第一項ニ規定セラレタル
モ、外全一ノ責務ヲ遂行スヘシ

敵ト遭遇セハセ等ノ諸隊長ハ其敵ノ兵力及ヒ編組ヲ詳ニシ
尚側衛隊ハ速ニ前方ニ進出シテ敵ノ側方ヲ包圍スルト共ニ
所定ノ部隊到着スル迄前衛ノ側方ヲ監視スヘシ

第四百九 退却行ニ於ケル後衛司令官ノ責務左ノ如シ

(一) 後衛ノ警戒部隊ヲ定ム

ハキ地物或ハ地矣ヲ指示ス

開洞セル地形及ヒ遠隔ナル地矣ハ以敵ノ斥候ヲ派遣シ後
蔽レ且ツ横断セラレタル地矣及ヒ濃霧ニ際シテハ斥候ヲ
増加シ且ツ小哨ニ近ク之レヲ保持スヘシ

第四百十四 行軍小哨隘路森林及村落等ニ入りタルトキハ一
層其ノ警戒監視ヲ嚴密ニシ且ツ可成詳細ニ地形ヲ研究シテ
後續部隊ノ運動ヲ渋滞セシメサルヲ要ス之レヲ為シ若シ
察スハキ物件廣大ナルトキハ適時ニ新ニ斥候ヲ派遣ス又
之ヲ増援スヘシ

第四百十五 行軍小哨長ハ自己ノ斥候ヨリ報告ヲ受領シタル
トキハ自ら之ヲ調査シ其ノ真相ヲ確シタル後テ自己ノ報告
ヲ送致スヘシ
第四百十六 行軍向行軍小哨ハ警戒ヲ繼續シ防禦ニ適スル地

物ノ附近ニ停止シ遮蔽セラ敵眼ヲ避クヘシ

第四百十七 敵ノ出現ニ際シテハ行軍小哨ハ敵ニ近迫シテ搜
索ヲ行ヒ敵ノ攻撃ヲ受クル場合ハ地物ヲ台領シ互ニ相協力
シテ敵ヲ阻止スヘシ尚為シ得レハ最少ノ小哨ヲ以テ運動ヲ
繼續スルヲ要ス

第四百十八 斥候ハ適時ニ敵ヲ発見シテ小哨又ハ軍隊ノ一般
運動ノ安全ヲ圖ルヲ要ス斥候ハ為シ得ル限り廣ク前方及ヒ
側方ヲ監視シ敵ノ陰謀シ得ハキ物件(森林叢林凹地等)ニ對シ
テハ特ニ注意ヲ拂フヘシ

第四百十九 地物ノ偵察ヲ迅速ナラシムル為メ騎兵ヲ使用ス
ヘシ歩兵ヲ使用スルハ騎兵ヲ有セサル時ニ限ルモノトス
第四百廿 斥候ハ途上遭遇スル者ヲ抑止シ訊問ノ為メ之ヲ
斥候ヲ派遣セシ行軍小哨長ノ許ニ送致スヘシ

塵埃、火、武器ノ閃光、敵ノ出現ヲ認メタルトキハ速ニ行軍小
哨長若シクハ行候ヲ派遣シタル部隊長ニ報告シ尚監視ヲ繼
續シテ其ノ後ノ情況ヲ詳ニマヘシ
行候ノ射撃ヲ以テ敵ノ出現ヲ報告スルハ只不意ニ敵ト衝突
シ報告スルノ暇ナキ場合ニ限ルモノトス
第四百二十一 休止ニ際シテハ行候ハ其ノ行進シ來レル順序ニ
隨ヒ自己ヲ隱蔽シ周圍ヲ展望シ得ル如キ適當ノ地矣ニ位置
スヘシ

第四百二十二 行候ハ展望ニ適スル一地方ヨリ他ノ地方ニ移
動シ順次如斯クツツ前進スヘシ
行候ハ互ニ見失フコトナク順次行進スヘシ若シ兵力之ヲ許
サスレテ行候ヲ二名トナシタル時ハ其ノ内ニ上級者ヲ加ヘ
上級者ハ他ノ行候ノ後方ニ續行スヘシ

第四百二十三 道路ナク運動不便ナル地方ニアリテハ行軍小
哨或ハ部隊ヨリ展望ニ適スル地方ニ側方ノ道路ニ翼行候
ヲ派遣ス此ノ行候ハ前衛若シクハ主力縦隊全部ノ通過スル
迄該地矣ニ停止シ最後ニ其ノ後尾部隊ニ合スヘシ

第四百二十四 行候ハ其認識セル事項ヲ傳令若シクハ信号ヲ
以テ報告スヘシ如斯の場合ニ於テ確實ニ信号ヲ受領シ得ル為
メ行候ヲ派遣セル部隊ハ行候ノ信号ヲ監視スル兵員ヲ該部
隊ニ任定シ置クヘシ

第四百二十五 軍隊ノ独立部隊長ハ縦隊命令ニ基キ自己ノ部
隊ヲシテ時間ヲ空費スルコトナク適當ノ時機ニ於テ一般縦
隊ニ参加シ得ル如ク宿營モ亦ノ時刻ヲ規定スヘシ
独立部隊長ハ行軍ノ軍紀維持ニ對シ責任ヲ有シ隨時縦隊ノ
伸長ヲ束ササル如ク自己ノ部隊ヲ行進セシムヘシ

五始隊ノ射撃ニ對スル縦隊指揮官ノ運動

第四百二十 方面ニ射撃ヲ聞キタルトキ縦隊指揮官ハ偵察兵ヲ派遣スル
レ而シテ該方面ニ戦闘惹起セラレタル情報ヲ受クレハ高級
指揮官ノ命令ヲ待ツコトナク情況ニ應ジ適當ナル決心ヲ為
スヘシ

(一) 前進行ニ於テ若シ比隣縦隊ノ前衛ニ戦闘惹起セハ高級指
揮官ノ命令ヲ待チツツ運動ヲ繼續スヘシ又隣接縦隊ノ主
力戦闘ヲ開始セハ敵ノ側面ニ對シ行動スルヲ前方ニ進
出シテ自己部隊ノ一部若シクハ全部ヲ以テ援助スルカ或
ハ其ノ縦隊ノ方向ニ前進シツツ之ヲ援助スヘシ然レトモ
前衛ハ高級指揮官ノ命令アル迄縦隊運動ノ為メ指示セラ
レタル路上ニ留ルヘシ此ノ際中央ニアル縦隊ノ指揮官ハ

側方ニアル縦隊ニ於テ戦闘ノ起リタル事ヲ他ノ側方ニアル
縦隊指揮官ニ通報シ且ツ其ノ縦隊トノ連絡ヲ破ルコト
ナク射撃ニ轉移スルノ方法ヲ講スルモノトス

(二) 退却行ニ於テ後方ヨリノ射撃ニ對シテハ命令ナキ限り之
ニ對抗スルヲ要セズ若シ側方縦隊中ニ敵ト真面目ナル戰
闘惹起セハ独斷ヲ以テ一部ヲシテ之ヲ援助セシムルコ
トヲ得ハシト雖モ全縦隊ヲ以テ機動ヲ行フハ唯頗ル緊要
ナル場合ニ於テノミトス

(三) 側敵行ニ於テハ後令側衛戦闘ヲ開始スルモ主力ハ之ニ參
加セサルモノトス

第四百二十七 隣接縦隊ノ援助ニ赴ク縦隊ノ指揮官ハ速ニ高
級指揮官ニ其ノ旨ヲ報告シ且ツ隣接縦隊ニ通報スルヲ要ス
又適時援助ヲ受ケントスル縦隊ノ指揮官ニ適時自己ノ行動

ヲ通報スヘシ

六夜行軍ノ特性

第四百二十八 現時空中搜索・盛ナル時ニ方リテハ戦闘ノ目的ヲ以テ計画セラレタル運動ヲ秘匿スル為メ夜間ニ於テ其ノ運動ヲ實施スルヲ最モ有利ナリトス

第四百二十九 夜間ノ運動ハ遅タトシテ而モ疲労多ク秩序亦

速ニ破壊セラレ道路ヲ誤リ易ク且ツ部隊間ノ連絡及警戒ノ

傳達困難ニシテ運動ノ速度ハ半減セラレ殊ニ難路ニ於テ更

ニ其ノ運動ヲ遲滞スルノ害アルモ夜間ノ運動ハ我軍隊ノ移

動ヲ敵ニ暴露スルコトナク敵ノ不意ニ乘シテ有利ナル位置

ヲ占メ且ツ之レニ依リ我行動ノ進捗ヲ安全ナラシムルヲ得

ルノ利アリ
第四百三十 夜行軍ニ於ケル各種ノ不便ハ適當ノ方法ヲ講

スレハ之ヲ除去スルコトヲ得ハレ其ノ方法左ノ如シ

(一) 綿密ナル道路ノ研究 豫メ行進セントスル道路ニ関スル

最モ正確適切ナル情報ヲ蒐集シ且ツ途上遭遇スルハキ障

物ヲ調査シテ為シ得ル限リ之レヲ排除シ日夜現地ニ就キ

テ行進スルキ道路ニ習熟スルヲ要ス

(二) 有望ナル案内者ノ搜索 若シ疑ヲ懐ク又ハ道路ノ研究

不備ナルカ或ハ道路ナキ地方ニ於テ運動ヲ實施セントス

ル場合ニ於テハ特ニ案内者ヲ採用ニ注意ヲ付ヘン

(三) 警戒機関ハ歩兵ヲ以テ編組シ乗馬機関ニ報告傳達ノ為メ

配属ス道路無キ所ヲ行進セサルヘクテサレ時ハ側面ニ行

軍小隊ヲ派遣セサルヲ可トス

(四) 軍隊ヲ縦隊ニ区分シ且ツ縦隊ニ於ケル区外ヲ適當ナラシ

メ軍隊ハ能ク集結シテ運動スヘシ而シテ前進行ニ於テハ

砲兵ハ縦隊ノ後尾ニ近ク騎兵ハ歩兵ノ後方ニアリテ行進
シ退却行ニ在リテハ之レト相及シ高砲兵ニハ独立スル掩
護隊ヲ付ス

若シ敵ヲ襲撃スル目的ヲ以テ運動シ行フカ或ハ敵トノ遭
遇ヲ豫期スル場合ニ於テハ一車輛ヲリト雖モ之ヲ行軍縦
隊ノ部隊間ニ位置セシム可カラス又前進行ニ際シテハ第一
級輜重ハ全縦隊ノ後尾ニ退却行ニ於テハ其先頭ニアリ
テ行進スヘシ

(五) 連絡ヲ鞏固ナラシムル為メ行軍縦隊ト警戒部隊トノ距離
ヲ短縮シ又警戒部隊相互間ノ距離ヲモ短縮スヘシ高縦隊
直接警戒ノ為メ派遣スル行軍小哨ハ其ノ兵力ヲ増加シ行
軍小哨ト其掩護ヲ受クル部隊間ノ連絡ハ小數隊候ノ連繫
ニ依リ保持スヘシ

軍隊ヲシテ進路ヲ誤ラシメサル為メ道路ノ交叉矣ニ兵員
(標兵)ヲ置キ後續部隊又ハ落伍者ニ縦隊ノ行進セシ方向ヲ
指示セシムヘシ此標兵ハ新クニ通過スル部隊ノ標兵ト交
代シテ後ニ後尾ノ部隊ニ加ハリテ行進スルモノトス

(六) 休憩ノ節約 大休止ハ絶体ニ之ヲ行ハス小休止ハ低地ヲ
選ビテ之ヲ行ヒ決シテ山峯ニ於テス可カラス而シテ休止
ノ際ハ兵員ハ坐シテ銃ヲ手ヨリ離サス騎兵及ヒ砲兵ノ乘
馬者ハ下馬シテ韁ヲ以テ馬匹ヲ保持スヘシ又敵ニ最モ近
キ部隊ハ當直ヲ定ムヘシ而シテ休憩ヲ永續スルハ不利ナ
リ

(七) 行軍中嚴格ナル規律ト静粛トヲ遵守スルコト喫煙談話高
声ノ誦令信号及ヒ戦闘ヲ禁ス
不慮ノ事件及ヒ混乱ヲ避クル為メ特ニ部隊長ノ命令アル

ニアラサレハ絶体ニ射撃スルコトヲ禁ス而シテ月夜ニ際
レ開濶地及ニ渡河矣ニ於テハ銃ヲ負革ニテ担ヒ又ハ手ニ
テ携フヘシ若シ縦隊探照燈ニ依リ照サレタルトキ伏臥ス
ヘシ

(八) 襲撃ノ目的ヲ以テ夜行軍ヲ実施スル場合ニ於テハ再曉前
敵ニ接近スル如ク計畫スヘシ

第 四百三十一 夜行軍ニ於テハ高級指揮官ノ特別命令ニ依ルニ
アラサレハ兵火スヘカラス而シテ報告ノ閱覽又ハ記述ニ際
シテハ遮眼燈ヲ使用スヘシ若シ兵火ヲ許可セラレタルトキ
ハ提燈ノ光線ヲ後方ニ向ケ且ツ敵眼ニ遮蔽スル為メ各中隊
ノ後尾ニ於テ之ヲ携帶スヘシ

第 四百三十二 炎熱及ニ迄寒時ニ於ケル行軍ノ特性
ニ依リテ
七 炎熱及ニ迄寒時ニ於ケル行軍ノ特性
炎熱ノ悪影響ヲ緩和スル為メ左ノ方法ヲ取ル

ヲ要ス

(一) 午前中ニ行程ヲ終ル如ク出発ノ時刻ヲ早ムルカ或ハ炎熱
最モ甚シキ時刻ヲ避ケテ二回ニ區分シ又ハ全然夜行軍ヲ
行フコト

(二) 情況之ヲ許セハ縦隊内各部隊間ノ距離ヲ増大スヘシ

(三) 大休止ノ時間ヲ延長シテ其數ヲ増加スヘシ

(四) 最モ考慮ヲ要スルハ飲水ナルヲ以テ出発ノ際各兵ノ携
帶スル水筒ノ充滿シタルヤ否ヤヲ監視シテ候テ前方ニ派
遣シ途中村落ノ住民ヲシテ道路ノ両側及ニ休止ノ地矣ニ
可成多量ノ水ヲ樽又ハ手桶ヲ以テ供セシムヘシ而シテ水
ニ乏シキ地方ニ於テハ軍隊ノ許ニ水ヲ運搬セシムヘシ

第 四百三十三 迄寒ノ悪影響ニ對シ最モ有效ナル方法ハ糧食
ノ供給ヲ充分ナラシムルニ在リ而シテ休止ニ際シテハ各兵

員ヲシテ吐セシメス特ニ睡眠セシメサルコト緊要ナリ又兵員ヲシテ前途ノ運動遠ナルコトヲ考慮セシメ大休止ハ之ヲ短縮スヘシ又騎兵ハ時々兵員ヲ下馬セシムヘシ手顔殊ニ足部ノ凍傷又ハ感冒豫防ニ関シテハ特ニ大ナル注意ヲ拂フヘシ

八、山中行軍ノ特性

第四百三十四 山中行軍ニ際シテハ道路ニ對スル豫備搜索ヲ最モ緊要ナリトス

第四百三十五 軍隊ニシテ若シ數個ノ縱隊トナリ行軍スルトキハ各縱隊ハ自己ノ編組ヲ以テ全然獨立セルモノト思フセサル可カラス

第四百三十六 一ノ縱隊敵ト遭遇スルニ際シ他ノ縱隊ヲ以テ之ヲ援助スルハ隣接縱隊ニ對抗スル敵ノ側面ヲ突クト共ニ

其ノ前面又ハ背面ニ猛進スルニ依リテ其ノ目的ヲ達成シ得ヘシ

第四百三十七 縱隊間連絡ノ為メ最モ有効ナルハ無線電話ニシテ其ノ外高ホ發火信号信号燈提燈、火箭、爆鳴、松明、篝火等ヲ適用スルモノトス

第四百三十八 各縱隊ノ行軍ハ一搬規定ニ拠ルモノノ外高ホ左ノ規定ニ依リ實施ス

(一) 警戒隊ハ兵ト共ニ途上ノ障礙物ヲ排除スル為メ主力ノ接近シ来ル途ニ其作業ヲ終了シ得ル程度ノ距離ニ派遣スヘシ

(二) 砲兵及輜重ヲ掩護スル為メ充分歩兵部隊ヲ以テ之レニ充ツ例ハハ砲兵一中隊ニ對シ歩兵一中隊ヲ以テスルカ如シ

(三) 優勢ナル兵力ヨリ成ル縱隊ニアリテハ行軍ノ際軍隊ノ撞

着ヲ来ササル如ク橋隊ニ區分スルヲ要ス其ノ際騎兵ハ独立ノ橋隊トナリテ行進シ砲兵ハ諸部隊間ニ配置セラルルモノトス

第四百三十九 輜重ハ軍隊ト分離シ一個又ハ數個ノ橋隊トナリ軍ノ縦山岳又ハ独立山峯ヲ通過シタル後其運動ヲ開始ス而シテ部隊ト夫ニ行進シ得ルモノハ唯夕莠一級輜重ノミニシテ時トシテハ單ニ駭載ニ限ラルルコトアリ

第四百四十 警戒隊ニハ駭載機關銃ヲ附屬スルヲ有利トシ向所要ノ騎兵ヲ配屬セシムルニシテ敵ノ近傍ニ於テハ前衛(後衛)ノ運動スル道路ノ側方ニシテ小銃ノ有效射距離又時トシテハ砲火ノ有效射距離内ニ在ル高地ニ小哨ヲ派遣シテ之ヲ台領セシムルヲ要ス而シテ小哨ハ前衛後尾ノ通過シ終ル迄該高地ニ停止シアルヘシ

斯ノ如キ小哨ハ主力縦隊ヨリモ諸方面ニ派遣スルモノトス
九 廣原ニ於ケル行軍ノ特性

第四百四十一 廣原ニ於ケル行軍ニ際シテハ軍隊ハ糧食ノミナラズ水及ヒ燃料ニ至ル一切ノ必需品ヲ携行セサルカラス其ノ際輜重ノ警戒ニ就テハ(車輛又ハ駭載)特別考慮ヲ拂フヲ要ス

第四百四十二 部隊ハ其大小ニ應ジ行軍途上ニ於テ要スル水及ヒ食料ノ供給ヲ受ケ之レヲ大小ノ縦隊間ニ配分シ縦隊ハ又之ヲ各橋隊ニ細分ス

第四百四十三 各橋隊ハ次ノ如キ序列ヲ以テ行進ス即チ砲兵及ヒ輜重ノ前方側方及ヒ後方ニ歩兵ヲ配置シ騎兵主トシテ独立シテ行進ス
警戒ノ為メ諸方向ニ斥候ヲ俾ヘル行軍小哨ヲ派遣ス廣原ニ

旅ケル行軍序列ノ範圍ハ附録第十ニ掲ケル
第四百四十四 廣原ニ於テ特ニ緊要ノ意義ヲ有スルモノハオ
アジス及升テナリトス¹オアジス(砂漠内ノ次地)ハ之レニ依
リテ運動ノ方向ヲ定メ又升テノ數其水邊迄升テ同距離ハ
以テ橋隊ノ大小行程ノ延長夜營者¹ハ直營ノ地ヲ定ムル
ニ便利ナリ

第四百四十五 軍隊ハ常ニ水ヲ準備シ¹ラ要ス而テ之レ
カ使用ハ高級指揮官ノ嚴重ナル検査ノ下ニ於テス¹キモノ
トス¹途上ニ於テ遭遇スル井水ヲ利用スルニハ警戒ヲ嚴シ
豫メ清淨シテ使用ニ適スルモノナルヤ否ヤヲ調査ス¹宿營
地到着ノ際ニ於テモ亦然リトス¹地方ノ水質ヲ詳カニスル途
ハ携行セル準備水ヲ節約シテ使用ス¹シ

第五篇 戰闘

一、原則

第四百四十六

戰闘ハ戦争ノ主要ナル解決者ナリ

第四百四十七

戰闘ノ勝利ハ自己ノ達成セントスル目的ヲ明

瞭ニシ彼我ノ情况ヲ詳カニシ剛毅勇敢且巧妙ナル動作ヲ以テ目的ノ達成ニ奮勵努力スル者ノ午ニ帰スルモノトス

第四百四十八

敵ニ対シ勝利ヲ得ル最モ有効ナル方法ハ敵ヲ攻

撃スルニアリ之カ爲敵ト遭遇セル場合ニ於テハ常ニ攻撃動作ニ邁進スルヲ原則トス

第四百四十九

敵ニ対シテハ常ニ動作ノ機先ヲ制シ以テ我動作ヲ安全ナラシムルト共ニ敵ヲシテ我爲ニ有利ナル如キ行

動ヲ取ラシムルヲ緊要トス

第四百五十

戰闘ニ際シ全軍隊ハ各一般目的ニ向ツテ其全力

ヲ傾注セサル可カラズ之カ爲各軍隊ヲ一兵卒ニ至ル迄ヲ能ク此目的ヲ知悉セシムルヲ要ス而テ此ノ目的ニ関連スル箇々ノ任務ニ関シテモ亦然リトス

第四百五十一 凡ソ各兵種ハ互ニ相協力援助スルノ責任ヲ有スルト共ニ某兵種ニ依リ達成セラレントスル勝利ハ之ヲ榮揚スヘシ

戰陣ノ主兵ハ歩兵ナリ爾他ノ兵種ハ有ユル方法ヲ以テ戰陣ノ目的ヲ達成スル爲歩兵ニ協力シ身ヲ以テ危機ニ瀕セル歩兵ヲ援助セサル可カラズ

第四百五十三 各指揮官ハ敵ノ意志ニ屈從スルコトナク自己ノ目的ノ遂行ヲ阻碍スル敵ノ抵抗ヲ破碎シ以テ其目的ノ達成ニ努カスヘシ

第四百五十三 指揮官ハ唯命令ヲ下スノミナラス之カ実行ニ

関シ大ニ顧慮セサル可カラズ又絶エズ敵情及事故ノ發生ヲ豫察シ得ヘキ一般ノ形勢ニ就キ各方面ニ互リ諸般ノ調査研究ヲ遂ケ以テ臨機應變ノ處置ヲ取ルヲ緊要トス

第四百五十四 指揮官ハ往々實際ノ情況ヲ詳ニセル完全正確ナル情報ニ接セサルコトアリ然レモ之カ爲メ自己ノ決心ヲ妨ケタルモノニ非ラス蓋シ戰陣ニ於テ例令適切ナラサル處置ト雖モ尚之ヲ爲サ、ルニ勝ルヲ以テナリ

第四百五十五 各部隊長ハ其担当セル任務ノ遂行ニ関シテハ独立シテ動作スルヲ要ス之カ爲自己ノ指揮下ニアル兵力及資材ヲ以テ満足シ他ノ援助ヲ期待ス可カラズ

高級指揮官ハ戰陣ノ際部隊長ヲ援助スルニ方リテハ常ニ動作ノ主要目的及大局ニ着眼スルヲ要ス

第四百五十六 戰陣ニ際シ各指揮官ハ其隷下ノ軍隊ヲ指揮ス

ル為適當ナル地点ニ位置スヘシ

第四百五十七 戦闘ヲ開始セル部隊ハ其終結スルニ至ル迄テ之ヲ継続スルヲ原則トス

第四百五十八 数日ニ亘ル戦闘ニ於テハ其最モ苦戦奮闘セル部隊ハ補充並整頓ノ為メ隨時交代セシムルヲ要ス

第四百五十九 之カ為戦闘長時日ニ至ル時ハ高級指揮官ノ余ニ依リ其指揮下ニ在ル豫備隊ノ戦術的集結ヲ大ナラシムルヲ要ス

交代ヲ受ケタル部隊ハ其状態並情况ニ応シ休息ノ為メ退却シ若シクハ受働的地區ニ移動スルモノトス

二、戦闘部署

第四百六十 戦闘部署ノ要訣左ノ如シ

(一) 敵ニ対シ勝利ヲ得ル為メ各兵種ヲシテ遺憾ナク其能力ヲ

發揮セシムヘシ

(二) 戦闘ノ目的ヲ達成シ且ツ相互ノ救援ヲナス為メ他兵種相協力シテ歩兵ノ安全ヲ図ルヘシ

(三) 負担セル各個ノ任務ヲ達成スル為メ有力独立部隊ヲ編組スルヲ要ス

(四) 情況ノ推移ニ応シテ部隊ヲ変更シ且ツ適時軍隊ノ最大数ヲ所要ノ方向ニ集結シ得ルヲ要ス

(五) 敵ノ配置ヲ包圍若シクハ突破シ又ハ我軍ニ対スル敵ノ包圍若シクハ突破ニ抵抗セサル可カラス

第四百六十一 戦闘ノ部署ハ戦闘地区及ヒ總豫備(高級指揮官ノ豫備)ヨリ成リ各戦闘地区ハ更ニ少ナル地区及ヒ部隊豫備(地区指揮官ノ豫備)ヨリ成ルモノトス

第四百六十二 戦闘地区ハ一般ノ目的ヲ達スルニ必要ナル個

々ノ任務達成ノ為メ設ケラレ、モノニシテ各戦闘地区ノ兵カハ其負担スル任務、地形及ヒ敵情ニ依リ之ヲ異ニス而テ攻撃ニ際シテハ敵ニ大ナル打撃ヲ與ヘント企図スル地区又防禦ニ在リテハ最モ重要ナル戦闘地区ニ於テハ最モ優勢ナル兵力ヲ有セサル可カラス

第四百六十三 総豫備ノ任務ハ戦闘ノ成功ヲ収メ且ツ危険ナル方面ニ於ケル敵ノ攻撃ニ抵抗スルニアリテ其他尚総豫備ヲ以テ戦闘地区ヲ増援シ或ハ戦闘不利ナル場合総豫備ヨリ部隊ヲ派遣シテ敵ニ対抗セシムルモノトス而テ総豫備ヲ部署スルハ唯高級指揮官ノミ其權利ヲ有ス

第四百六十四 部隊豫備ハ戦闘ニ從事スル自己ノ戦闘地区部隊ヲ増援シ又ハ自己ノ地区ノ成果ヲ収メ或ハ自己ノ地区内ニ於ケル敵ノ包圍及ヒ突撃ニ抵抗スル為メ設ケルモノニシ

テ此ノ豫備ハ戦闘地区指揮官ノ指揮ニ属ス

第四百六十五 戦闘地区及総豫備間ニ於ケル兵力ノ相互關係ハ行動ノ目的及情況ノ如何ニ依ルモノトス

而テ側面ニ於ケル我動作ヲ豫想シ或ハ敵情不明ナル力若クハ戦闘永續スル場合ニ在テハ優勢ナル総豫備ヲ必要トシ之ニ反スル時ハ小ナル総豫備ヲ以テ足レリトスヘシ

第四百六十六 各戦闘地区ニ於ケル戦闘小地区ト部隊豫備トノ關係ハ前條ノ外尚ホ射撃ノ必要ノ程度ニ依ルヘシ即チ某戦闘地区ニ在リテハ任務及情況ニ依リ全ク部隊豫備ヲ置カサルコトアルカ如シ

第四百六十七 各指揮官ハ部下軍隊ノ戦闘部署ヲ為スニ當リ今ハ現在ノ建制ヲ破ラサルヲ要ス

第四百六十八 各戦闘地区ノ正面ニ於ケル軍隊配置ハ決シテ

之ヲ中斷スヘカラス然レモ若シ中斷アル配置ヲ為セル場合
ニ於テハ此中間地区ハ必ス我歩砲兵ノ十字下ノ下ニ在ラ
シムルヲ緊要トス

第四百六十九 砲火ノ威力ヲ充分利用セシカ為砲兵ハ戰鬥ノ
初期ヨリ一舉ニ陣地ニ就カシムルモノトス唯々大ナル戰術
上ノ集結ニ在リテハ時トシテ之ヲ豫備ニ置クコトヲ得

第四百七十 師団ノ編組内ニアル砲兵ハ或ハ師団砲兵指揮官
ノ隷下ニ止マリテ獨立砲兵地区ヲ作り或ハ全部又ハ一部ハ
歩兵旅団（聯隊）長ノ指揮下ニ入りテ旅団（聯隊）地区ニ配
屬セシメラル

師団ノ編組内ニ入ラサル砲兵（軍団ノ）ハ之ヲ師団ニ配屬
セシメ或ハ軍団長ノ指揮下ニ止マラシム

第四百七十一 大ナラサル戰術的集結ニ在リテハ砲兵ハ特別

砲兵地区ヲ成形スルヲ原則トス

第四百七十二 砲兵ヲ師団又ハ旅団ノ各地區ニ配屬セシムル
ニ當リテハ必要ナキ限り固有ノ編制ヲ分割セサルヲ要ス

第四百七十三 砲兵陣地選定ニ際シテハ其ノ担当セル任務ヲ
最モ良ク達成スル目的ヲ以テ地域ノ境界ニ顧慮スルコトナ
ク必要ニ應シテハ縦ヒ他運ノ砲兵ト虽モ隣接地区ニ其陣地
ヲ占領スルコトヲ得ヘシ凡ソ陣地ノ選定ニ於テハ最モ肝要
ナル地区ハ主トシテ砲兵ニ屬スルモノトス而テ砲兵ハ好果
ヲ收ムル為縦ヒ間接射撃ヲ以テスルモ其側面ヲ掃射シ得ル
ヲ緊要トス此ノ要求ニ適合スルモノハ即チ砲兵ノ包圍的配
置ナリトス

砲兵陣地ノ選定ニ際シ最モ考慮ヲ要スヘキハ砲兵ノ戰鬥任
務ヲ完全ニ遂行セシムルニアリテ之ニ次クモノハ戰鬥的關

係ニ於ケル便宜ナリトス

第四百七十四 砲兵ハ前面ニ於ケル我歩兵ノ配置並隣接スル歩兵部隊ニ依リ自然ニ掩護セラル然レモ攻撃歩兵若シ遠ク前方ニ進出セルトキハ必要ニ際シ特別掩護隊例ハ砲兵一大隊ニ対シ歩兵一中隊宛ヲ附スヘシ此掩護隊ハ其附属スル砲兵隊長ノ指揮下ニ入り自己ノ射撃ヲ以テ敵ノ射撃及ヒ襲撃ニ対シ砲兵ヲ掩護スル責任ヲ有ス

第四百七十五 軍ノ騎兵ハ若シ敵ト接近シ戦闘ニ參與セサルヘカラサルニ至ラハ正面ノ搜索ハ之ヲ軍団ノ騎兵又ハ歩兵部隊ニ委ネ敵ノ側面及ヒ背面ニ於テ動作スル為メ該騎兵ヲ部署セル指揮官ノ命令ニ依リテ集結セシメラルモトス

軍団ノ編組内ニ在ル騎兵ハ之ヲ集結シ若シクハ各師団ニ配

属シテ動作セシム之等ノ場合ニ於テモ騎兵ヲ直接自己ノ目的ニ使用スル為メ騎兵小部隊(一箇師団ニ対シ騎兵一中隊又ハ哥薩克騎兵一中隊)ヲ歩兵ノ許ニ残置スルヲ有利トス敵ノ近距離ニ於テ正面搜索ノ為歩兵ヲ派遣セルハ該騎兵部隊ハ情况ニ応ジ自己ノ側面ヲ警戒シツ、敵ノ側面ニ対スル搜索ヲ継続シ且ツ歩兵ト連絡シテ行動シ以テ戦闘ノ一級目的ヲ達成スル為メ歩兵ヲ援助スヘシ騎兵ハ乘馬或ハ徒歩ヲ以テ行動ス騎兵ニ配属セラレタル機関銃ハ徒歩戦ノ場合並地形若シ側面ニ於テ敵ヲ掃射スル為メ其進出ヲ許ス時ハ騎兵ノ攻撃準備ノ為メニ使用セラレ

直接勤務ノ為メ歩兵ニ配属セラレタル騎兵部隊ハ連絡及我側面又ハ背面監視ノ小哨ニ勤務スル為メ各戦闘地区及ヒ總豫備ニ配属ス

第四百七十六 工兵及ヒ技術部隊ハ状況並目的ニ応シ各戰區
 地区及ヒ總豫備ニ配屬ス之等ノ部隊ハ區署セラレタル指揮
 官ノ指示ニ隨ヒ所定ノ任務ニ従事スヘシ

第四百七十七 戰陣正面ノ延長ハ行動ノ目的部隊(支隊)
 大小地形ノ性質及ヒ陣地ノ築城程度ニ依リ定メラルモ
 トス而テ歩兵大隊ハ攻撃ニ在リテハ二分一露里以下防禦ニ
 在リテハ一露里以下ノ正面ヲ占ム
 其ノ概算左ノ如シ

| | 攻 撃 | 防 禦 |
|----|---------|--------|
| 聯隊 | 一—二露里以内 | 三露里以内 |
| 旅團 | 二—四全 | 六全 |
| 師團 | 三—六全 | 一〇露里以内 |
| 軍團 | 五—一〇全 | 二〇全 |

(註) 受働的防禦ヲ示スモノナリ主働的防禦ニ於ケル正面ノ
 延長ハ攻撃ノ場合ニ全シ

堅固ナル築城陣地ノ攻撃ニ際シテハ各師團戰陣正面ノ延長
 ハ一乃至二露里トス
 第四百七十八 戰陣地区ノ正面ト部隊豫備トノ距離ハ左ノ事
 項ニ適応スルヲ要ス

- (一) 通時ニ地区ノ増援ヲナシ得ルコト
- (二) 地区ノ側面包圍ニ対シテ安全ヲ因ルコト
- (三) 地形ニ応スルコト

第四百七十九 總豫備ハ攻撃ニアリテハ決戦ヲ行ハントスル
 方面ノ近傍ニ配置シ防禦ノ際ハ最も重要ナル戰陣地区ノ後
 方ニ配置セラル若シ地区ノ正面著シク延長シアル時ハ其正
 面内所要ノ地点ニ集結スル必要アル迄ハ總豫備ハ敵砲兵ノ

射距離外ニ位置セシムヘシ

第四百八十 總豫備及ヒ部隊豫備ハ可成隱蔽シテ配置シ敵ノ

地上又ハ空中偵察ニ依リ容易ニ察見セラレサルヲ要ス

第四百八十一 高級指揮官ハ我側面ニ於ケル危険ノ程度ヲ顧

慮シ警戒ノ為有カナル騎兵部隊ヲ派遣ス之等ノ部隊ハ敵方

ニ對シ乘馬作候又ハ徒步行候(往々監視哨ヲ設ク)ヲ派遣

ス而テ正面トノ距離ハ敵ノ包圍動作ニ對シ我軍隊ヲシテ適

時ニ之ヲ防止シ得セシムルヲ以テ程度トスルヲ要ス

側面監視ニ任セラレタル騎兵部隊長ハ其認識セル總テノ事

項ヲ高級指揮官及ヒ最近ノ戰鬥地区指揮官又ハ總豫備隊ノ指

揮官ニ報告スヘシ

右ノ外總豫備指揮官及ヒ外翼ノ戰鬥地区指揮官ハ側面ノ直

接監視ノ為ノ騎兵又ハ歩兵ノ小哨或ハ獨立歩兵作候ヲ派遣

遣スヘシ而テ斯ノ如キ小哨又ハ作候ハ要スレハ背面監視ノ

為メニモ亦之ヲ派遣スルコトヲ得

第四百八十二 敵ノ包圍ヲ警戒スル為メ騎兵及總豫備ヲ適當

ニ配置スル外敵ノ大部隊ノ行動ニ對シテハ尚ホ他ノ方法ヲ

適用スルヲ必要トス即チ諸兵種ヨリ成ル特別支隊ヲ派遣シ

或ハ側方若クハ背後ニアル障碍物ヲ經由スル通路ヲ占領セ

シムルカ如キ是ナリ

第四百八十三 各戰鬥地区ノ指揮官ハ望遠鏡ヲ携帯スル監視

兵ヲ其行動圈内ニ於ケル監視ニ便ナル地点ニ派遣シ戰場ノ

監視ニ任セシムルヲ要ス

第四百八十四 戰鬥部署ニ就ケル部隊ノ正面未タ射擊線ヲ成

形セサル間ハ歩兵作候ヲ以テ警戒ニ射擊線設定後銃兵潛伏候又ハ作候ヲ

以テ警戒スルモノトス

第四百八十五 戰鬥部署ニ就ケル各級指揮官ハ各部隊及ヒ各

級指揮官ニ對シテ

射擊線

射擊線

射擊線

射擊線

射擊線

兵種間ニ於ケル鞏固不断ノ連絡カ戰鬥動作ヲ進捗セシメ得ル緊要ナル條件ノ一タルヲ銘シ以テ本令第一篇ニ於テ規定セラレタル方法ニ依リ連絡ヲ設ケ且ツ之レヲ維持スルノ責任ヲ有ス

第四百八十六 戰鬥部署ニ就ケル各部隊ノ縱長ニ於ケル連絡ハ高級者ヨリ下級者ヘ又正面ニヤリテハ右方ヨリ左方ニ向ヒ設ケラル、モノトス

豫備隊ト前面ニ在ル軍隊トノ連絡ハ豫備隊ノ指揮官之レヲ設クルヲ要ス

側面監視若クハ側面掩護ノ目的ヲ以テ派遣セラレタル部隊ト高級指揮官及ヒ側面ノ戰鬥地ニ指揮官トノ連絡維持ハ該部隊長ノ責任トス步兵及砲兵間ノ連絡ハ砲兵指揮官又騎兵及歩兵間ノ連絡ハ騎兵指揮官之ヲ設ケ戰鬥線ニアル各隊

ニ対シテハ連繫スヘキ砲兵大隊ヨリ連絡ヲ取り各砲兵大隊ニ対シテハ砲兵中隊ヨリ連絡ヲ取ルモノトス

三、彈藥豫備、繙帶所及ヒ輜重ノ部署

第四百八十七 戰鬥部署ニ展開スル際第一級輜重ニ在ル彈藥ニ輪車ハ自己ノ隊ニ附隨シテ位置シ又砲兵大隊ノ戰鬥地ニハ所要數ノ彈藥ニ輪車ヲ配屬シ中隊間ニ之レヲ配分ス

第二級輜重ニ在ル彈藥ニ輪車ハ戰場ニ向ヒ前進シ各其所屬ニ從ヒ部隊長ノ指揮下ニ入ルモノトス

第四百八十八 陣地ニ於テハ火砲一門ニ對シ彈藥箱各一個ヲ砲側ニ配置シ殘餘ノ彈藥箱ハ之レヲ放列豫備ニ置ク

砲兵大隊ノ放列豫備ハ大隊長ノ處置ニ依リ一名ノ指揮官ノ下ニ之レヲ一纏メニシ或ハ直接放列長ノ指揮ニ依リ其指示

スル場所ニ配置スルコトヲ得

前車ハ放列毎ニ放列豫備ト各別ニ放列ノ附近ニセレテ配置スヘシ

前車及ヒ放列豫備ノ位置ハ可成掩蔽シ且ツ放列トノ交通ニ支障ナキ場所ヲ選定スヘシ

第四百八十九 砲廠ハ當該砲兵指揮官之レヲ部署シ先頭砲廠ノ位置ハ當該軍隊總指揮官之レヲ指定ス

第四百九十 第二級輜重ハ其掩護隊下共ニ交戦部隊ヨリ其ノ機動ヲ妨ケサル距離ヲ以テ適宜ノ場所ニセレテ配置ス(第三百六十)

第四百九十一 繙帶所ノ設置次ノ如シ即チ前線繙帶所ハ歩兵隊及ヒ砲兵旅団(独立砲兵大隊)ノ行動地域内ニ又繙帶本部ハ師団ノ行動地域内ニ於ケル敵火ノ射距離外ニ在ル住

民地ニシテ負傷者後送ノ途上ニ於テ繙帶隊ノ材料ヲ以テ設置セラルルモノトス

軍隊ノ材料ヲ以テ設置セラルル繙帶所ノ外赤十字社又ハ公共団體ノ材料ヲ以テ前線又ハ師団ノ行動地域内若クハ遠ク後方ニ於テ繙帶所及ヒ給養所ヲ設置ス

負傷者後送ノ為メニハ適宜ナル道路ヲ選定シ鐵道停車場ニハ負傷者後送ノ為繙帶所ニ附屬シテ繙帶交換所ヲ設テ而テ前線ノ繙帶所ハ隊及ヒ旅団(独立砲兵大隊)附醫官、繙帶本部ハ師団附醫官之レヲ管理ス之等ノ醫官ハ負傷者ノ後送ヲ管理シ且ツ其地域ニ在リテ動作スル軍隊以外ノ衛生設備ノ事業ヲ統轄ス而テ戰陣上ニ於ケル衛生上ノ總指揮ハ軍団又ハ師団(獨立師団)ノ醫官之レニ任シ繙帶所ノ位置及ヒ負傷者後送ノ道路ハ當該醫官之レヲ選定シ其醫官ノ隷屬

スル軍隊ノ長官之レヲ設置ス

四、軍隊ノ戰鬥展開

四百九十二 展開ノ目的ハ敵ニ對抗スル為メ成シ得ル限り我軍ノ運動ヲ秘匿シ且ツ無益ノ損害ヲ蒙ルコトナク最モ有利ノ地位ニ我軍ヲ配置スルニアリ之カ為各級隊ハ適當ナル行動ヲ以テ戰場ニ接近シ戰場ニ於テハ射撃並地形ニ適應スル迅速ナル運動及之カ蔭蔽ニ依リテ其目的ヲ達成スルモノトス

第四百九十三 指定セラレタル方向ヲ正確ニ維持スルハ我軍運動ヲ進捗セシムル為メ極メテ必要ナリトス之カ為部隊中ノ一隊ヲ以テ嚮導隊トナシ其餘ノ諸部隊ハ之ヲ基準トシテ運動スルモノトス

第四百九十四 迂回又ハ包圍ヲ行フニ方リテハ旋回翼面ト適

合スルヲ緊要トス

第四百九十五 運動ノ方向及地域（地帯）ハ地物ニ依リセレヲ指示シ且行動ヲ齊一ナラシムル為所定ノ戰鬥地區境界線占領ノ時刻ヲ一定シ又敵火ノ圈内ニアリテハ全カヲ傾注シテ前方ニ進出スルヲ有利トス

第四百九十六 敵ニ対スル側面運動ハ全ク之レヲ避ケルヲ要ス特ニ最モ敵ニ接近シアル部隊ニ於テ然リトス斯ノ如キ運動ハ後方部隊ヲ派遣シテ之レニ代ハラシムヘキモノトス
戰鬥部署ノ側面ヲ伸張スル必要アルトキハ總豫備ヨリ部隊ヲ派遣シテ該側面ニ新ナル戰鬥地區ヲ設ケ又戰鬥地區ニアリテハ部隊豫備ヲ派遣シテ之レヲ行フヘシ若シ戰鬥部署ノ集結若シテハ短縮ヲ要スルトキハ過剩ノ部隊ヲ總豫備又ハ部隊豫備ニ編入スヘシ

第四百九十七 戰鬥部署ノ側方移動ハ其ノ進行ヲ要スル側面
ノ翼ヲ伸張スルト同時ニ反対ノ側面ニアル翼ヲ短縮スルニ
依リ其目的ヲ達スルヲ得ヘシ

第四百九十八 戰鬥部署ノ方向轉換ヲ行フニハ各戰鬥地区ニ
對シ其赴カズトスル地區及ヒ方向ヲ地物ヲ以テ指示ス而テ
所定ノ地區ニ方向轉換ヲ行ヒタル後殘餘ノ部隊ハ其新方向
ニ出勤スヘキモノトス

第四百九十九 若シ戰鬥部署内ニ於テ我有効ナル十字火ヲ以
テ掃射シ得サル破綻ヲ生シタルトキハ最近ニアル豫備ヲ以
テ其破綻ヲ補綴スヘシ
之カ為機關銃ヲ附スルハ特ニ有利ナリ

第五百 包圍ハ正面攻撃ト連繫シテ行フヘキモノニシテ其際
包圍部隊ハ梯隊ヲ以テ前面ニ進出シタル後今側面ニ於テ敵
ヲ掃射攻撃スル爲メ所要ノ方向轉換ヲ行フヲ有利トス
第五百一 敵ノ砲圍ニ對シテハ豫備部隊ヲ派遣シテ敵ノ包圍
部隊ノ翼ヲ攻撃スヘシ若シ豫備ヲ有セサルトキハ包圍セル
敵ノ翼ヲ攻撃スル爲敵ニ包圍セラレタル部隊ヲ梯次ニ後退
セシムルヲ得

第五百二 迂回ヲ行フニハ充分ナル兵力ヲ有スルカ若シクハ
情況有利ノ場合ニ於テ計畫セラルヘキモノトス
着レク優勢ナル兵力ヲ有スルトキハ敵ノ兩翼ヲ迂回スルコ
トヲ得ヘク若シ之ニ依リ成功セハ敵ヲ包圍スルヲ得ヘシ迂
回ノ進路ハ適當ナル方向ノ送定時刻ノ算定迅速ナル運動陰
敵敵ニ関スル正確ナル判断及敵ノ配置正面ニ於テ動作スル
我軍隊トノ鞏固ナル連絡ノ保持ニ據ルモノトス

第五百三 敵ノ迂回ヲ察知セシカ爲メ適時之ヲ察見シ得ル如

ク(第四百八十一)翼面ノ遊視ヲ嚴密ナラシムルヲ緊要ト
ス而テ一度敵ノ迂回ヲ發見セハ状況及ヒ總豫備ノ兵力如何
ニ依リ或ハ敵ノ包圍部隊ヲ敵ノ正面部隊ヨリ分離スル目的
ヲ以テ之レヲ攻撃スルカ或ハ迂回ニ對抗スル為メ豫備部隊
ヲ派遣シ正面ニ在ル敵ヲ攻撃スヘシ此ノ第一ノ方法ハ稍々
冒險ニシテ特ニ確實ナル軍隊ノ支持及斷乎タル指揮官ノ確
信トヲ必要トス

右ノ外迂回ニ對抗スル為メ情況ニ依リ主働的方法即チ側面
地区ノ正面轉換又ハ豫備隊ノ梯隊出動等ノ方法ヲ適用スル
コトヲ得ヘシ

第五百四 運動ノ秘匿ハ掩蔽スルニ足ルヘキ地物ヲ利用シ又
曝露セル地点ハ之レヲ躍進シテ其目的ヲ達成シ得ヘシ
歩兵ノ射撃線ハ一ノ射撃陣地ヨリ他ノ射撃陣地ニ躍進シ豫

備ハ一ノ掩蔽地ヨリ他ノ掩蔽地ニ移動スヘシ此際有効ナル
敵火ノ下ニ在リテハ一旦新ナル射撃陣地ニ集合シ而シテ部
隊毎ニ迅速ナル運動ヲ以テ新ナル掩蔽地ニ移ルヘシ而シテ
部隊ハ其兵力小ナルニ從ヒ益々射撃ヲ猛烈ナラシメサル可
カラス又砲兵ハ陣地進入ノ為メ緩ヒ迂回スルモ掩蔽シアル
道路ヲ利用スヘシ

總テノ搜索勤務(第三百三十六)並陣地及ヒ觀測所ノ選定ハ
敵ニ蔭蔽シテ之レヲ行フヘシ

一ノ陣地ヨリ他ノ陣地ヘノ移動ハ梯隊毎ニ之レヲ行ヒ且ツ
砲兵ノ陣地撤去ハ之ヲ敵眼ニ觸レシメサルヲ要ス

騎兵ハ歩兵ニ比シ蔭蔽シテ運動スルコト一層困難ナリ然レ
モ騎兵モ亦蔭蔽ニ適當ナル一地点ヨリ他ノ地点ヘ躍進スル
ニ迅速ナル運動ヲ為シ得ルヲ以テ多少曝露地通過ノ不利ヲ

減少し得ルモノトス

運動ノ為隙形ノ選定ハ徒ラニ無益ノ損害ヲ蒙ラサル如ク地形及ヒ敵火ヲ顧慮シテ行フヘシ

第五百五 歩兵ハ敵火ノ下ニ於ケル曝露地ニ在リテハ一列又ハ散開隊形ヲ以テ運動スヘシ

砲兵及ヒ騎兵ハ曝露セル掃射地ヲ避クヘシト云モ必要ニ際シテハ砲兵ハ大ナル間隔ヲ取リテ排開隊形又騎兵ハ散開隊形ヲ以テ運動スヘシ

地形若シ敵火ヲ遮蔽スルニ便ナルトキハ各兵種ハ蔽蔽ニ通スルル他ノ隊形ヲ以テ運動スルコトヲ得

五、戦陣豫備品ノ補充

第五百六 現時ノ戦陣ハ軍隊特ニ砲兵ニ於テ多大ノ戦陣豫備品ヲ要求ス善ク管理セラレ且ツ巧ニ操縦セラル、銃砲火ハ

大ナル活カラ保持レ得ヘシト雖モ之ニ要スル犠牲モ亦大ナルモノトス而テ銃砲ノ飛達著レク射撃速度増大セル現今ニ在リテハ其ノ熱心ナル射撃ノ実行ハ実ニ後方ヨリ補充ヲ為シ能ハサル如ク多大ノ戦陣豫備品ヲ（特ニ砲弾）消費スルニ至レリ

故ニ凡ソ高級指揮官ハ必要ニ際シ大ナル弾薬ノ使用ヲ停止スルコト無カラシムル為無制限ナル弾薬豫備品ノ消費補充及ヒ大速度ノ射撃特ニ大口徑砲ニ消費スル砲兵材料ノ減損ニ対シ常ニ充分ナル注意ヲ拂ヒ計画スルヲ要ス而テ各級指揮官ハ決シテ弾薬浪費者タルノ権利ヲ有セス情状ヲ顧慮シテ其消費ヲ節約シ以テ最善ノ経済ヲ図ル為メ有ユル手段ヲ尽シ且ツ絶エス豫備品ノ現在高ニ関スル報告ヲ提出センメサル可カラス

第五百七 直接戦闘ニ從事スル軍隊ヲシテ彈藥豫備品不足ニ
対スル不安ノ念ヲ懷カシメ或ハ其補充ニ対シテ掛念セシム
ヘカラス而テ本件ハ高級砲兵指揮官ノ指揮下ニアル砲廠隊
ノ責務ナリトス

第五百八 砲廠ハ交戦中ノ軍隊ニ彈藥ヲ供給スル為メ状況ノ
如何ニ係ラス勇往邁進シテ前線ニ進出セサル可カラス而シ
テ自己ノ補給スヘキ部隊ト確實ナル連絡ヲ保持シ以テ其能
カヲ發揮スヘシ

第五百九 各師団ハ師団ノ先頭砲廠及ヒ砲廠ヲ補充スヘキ後
方倉庫ノ位置ヲ定メ以テ自己ノ補給線ヲ設置スルモノトシ
補給線長キトキハ一軍団内ノ各師団ノ為共同補給線ヲ設ケ
之ニ沿ヒ梯次ニ砲廠ヲ配置スヘシ

第五百十 補給ノ迅速確實ヲ期シ且ツ砲廠ノ作業ヲ軽減スル

為メ可成後方ノ倉庫ヲ軍隊ニ接近セシムル如ク有ユル方法
ヲ適用シ且ツ倉庫ヨリ彈藥ヲ交附スル為メ担夫、駄馬輸送其
他ノ方法ヲ適用スルヲ要ス

六 攻撃戰

原則

第五百十一 敵ヲ撃破スルノ決心ハ中途之ヲ挫折スルコトナ
ク終始一貫スルヲ緊要トス勝利ニ対スル奮勵努力ハ各級指
揮官ノ腦裡ニシテ銘記シ且ツ其ノ決心ヲ部下全体ニ徹底セシ
ムルヲ要ス

第五百十二 敵ノ要衝ニ対シ甚大ナル打撃ヲ與フレハ敵ヲ撃
破シ得ルヲ以テ攻撃中ニ適切ナル時機ニ於テ敵ニ比シ一層
強大ナル打撃ヲ與フルコトニ努力セサル可カラズ(局部ノ
勝利主義)

第五百十三 戦闘計畫ハ攻撃スル地点（地區）及ヒ其ノ方向ノ送定ニアリ而テ攻撃地点（地區）ハ決戦ニ於テ好結果ヲ收ムル爲緊要ニシテ且ツ軍隊ノ運動便ナル方面ナルヲ要ス

第五百十四 戦闘ノ準備ハ最後ノ成果ヲ收ムル迄常ニ遺漏ナカラシムルヲ要ス

第五百十五 一般戦闘ニ関聯スル総テノ各個行為（動作）ハ悉ク是レ根本的戰場思想（意思、理想）ト諸兵種ノ相互援助トノ結合タラサル可カラス

戦闘部署ヘノ轉移

第五百十六 戦闘ヲ豫想スル時ハ各級指揮官ハ最モ有利ナル交戦ヲ行フニ必要ナル方法ノ計畫及ヒ実施ニ関シ其ノ考慮ヲ集注セサル可カラス

第五百十七 必カ爲前方ニ在ル騎兵及ヒ前衛ノ合理的動作、戦闘展開ヲ迅速且安全ナラシムル方法（第三百二十六）展開戦闘及戦闘動作ニ移ルヘキ命令ノ平静ナル交附法、敵情及ヒ我軍隊並ニ比隣ノ情況ニ関スル不断ノ觀察等ヲ適當ナラシムルヲ以テ前項ノ目的ヲ達成スルノ所以ナリ

第五百十八 敵ト接近スルニ方リテハ前衛ハ前方ニ出勤セル騎兵ト共ニ断乎タル行動ヲ以テ主力ノ展開ニ有利ナル境界線又ハ支撐点ノ占領ヲ確實ナラシメテ對抗スル敵ノ兵力編組及ヒ其ノ運動方向或ハ配置ヲ詳カニシテ以テ主力ノ展開ヲテ安全ナラシムルヲ要ス

第五百十九 以上ノ任務ヲ遂行スルニ際シ前衛ハ主力ノ發展及ヒ砲兵觀測ノ爲メニ全カヲ尽シ重要ナル地点ノ占領ニ努カセサルヘカラス

第五百二十 重要ナル地点占領ノ目的ヲ以テ前衛ハ小銃ニ
 特 側面ノ機関銃火ニ依リ掃射シ得ル中間地ト共ニ可成
 廣ク正面ヲ占領スルニ躊躇スヘカラス此際自轉車隊及ヒ
 甲自働車ハ前衛ニ有カナル援助ヲ與フルコトヲ得ヘシ

第五百二十一 前衛ノ歩兵ハ熟識ナシ砲兵ノ援助ニ依リテ行
 動ス此際砲兵ノ任務ハ歩兵ノ展開ヲ掩護シ境界線又ハ緊要
 地点ノ攻撃ヲ援助シ且シ之カ維持ニ協力シ主力砲兵ノ展開
 ヲ安全ナラシムルト共ニ敵ノ砲兵火ヲ誘發スルニアリ

第五百二十二 戦闘展開ヲ行フニ方リ軍隊若シ深ク集結セラ
 シタル縦隊ニ在リ時ハ敵ノ砲兵火ヲ蒙ラサル程度ノ距離
 ニ於テセラルルヲ要ス而テ適時ニ戦闘展開ヲ為テ各部隊
 長ハ其ニ手取ヲ盡シテ觀察ヲ満足スル為メ必要ナル時間
 ヲ得セシムルモノトス

第五百二十三 戦闘展開ハ直接行軍縦隊ヨリ或ハ豫備隊形ニ
 縦隊ヲ集結シタル後ヲ又ハ沐浴ノ状態ヨリ之レヲ行フコト
 ナリ得

第五百二十四 展開ハ為隊ノ豫備隊形ニ集結マシハ速クニ戰
 一五六

用 = 特殊計劃無キトキニ於テ、小部隊ノ為メ適用セラレ
ル方法ナリトス

第五百二十五 展開トハ軍隊ノ光線状ニ配置シテ攻撃前進
ノ出發線ニ選定セラレタル境界線ニ向テ前進セシムルヲ云
フ而テ此運動ヲ行フニ方リテハ可成行軍隊形ヲ保持スルヲ
緊要トス

第五百二十六 砲兵ハ自己ノ陣地ニ域ニ向テ前進シ歩兵ハ必
要ノ場合砲兵ニ道路ヲ讓ルヘシ而テ砲兵ハ其運動ニ先テ豫
✓ 觀測所及シ陣地ノ偵察ヲ行フヲ必要トシ其ノ選定ハ適時
砲兵ノ高級指揮官ニ附與セラレシニ指示ニ基キテ行ハルモ
ノトス

第五百二十七 戰鬥部署ハノ轉移(戰鬥展開)ハ射擊線ノ設置及
シ連絡監視警戒等ノ設置ニ依リ完了セラレシモノトス

第五百二十八 展開及シ戰鬥部署ノ補助機關(連絡監視警戒)
設置砲兵ノ豫備作業並部隊長ノ説明附命令ノ附與等ノ為多
大ノ時間ヲ要スルヲ以テ攻撃前進出發線ヨリスル攻撃開始
時刻ヲ決定スルニ當リテハ之等ノ事項ヲ顧慮スルヲ要ス

第五百二十九 戰鬥部署ハノ轉移命令及シ攻撃命令ハ多クノ
場合獨立部隊命令ノ形式ヲ以テ附與セラレシモノトス
但シ最初展開及シ戰鬥部署設置ニ關スル命令ニハ充分時間
ノ餘裕ヲ存スヘシ然ル後白領セル出發線ヨリ進撃スル為メ
ニ一般命令ヲ下スヘキモノトス

第五百三十 戰鬥展開ノ為展開命令ニ於テ指示セラレハキ事
項ハ (一) 先頭ノ騎兵及シ前衛ノ任務 (二) 戰線ニ就ク部隊ノ
展開地區(線正面)ノ指定及部隊位置 (三) 砲兵陣地 (四)
側面警戒ノ方法 (五) 砲廠彈藥藥車衛生機關輜重及シ其他ノ

命令ナリトス

第五百三十一、攻撃命令ハ隨意ノ形式ヲ以テ之可成簡單ニシテ細密ニ且ラサレヲ要ス

第五百三十二、展開及ヒ攻撃ノ命令ニシテ時間ニ餘裕ナキトナハシラ合ハスルコトヲ得

戦闘準備

第五百三十三、戦闘ハ現在ノ状況ニ於テ有スル総テノ方法ヲ適用シテ準備セサレ可カラズ之等ノ方法ハ即チ敵ノ意表ニ出ツルニトシテ機動スルニトシテ射撃技術的方法脅威運動及ヒ局部的攻撃等ナリトス

第五百三十四、敵ノ意表ニ出ツルハ攻撃準備ニ於テ最も有効ナル方法ニシテ状況之レヲ許サハ先ツ第一ニ利用スヘキ方

法ナリトス

第五百三十三、敵ノ意表ニ出ツルハ我軍運動ノ落敵ノ努力ノ結果トニ依リ生スルモノニシテ他ノ準備方法中ノ最終目的ノ一ナルヘキモノトス

第五百三十六、断乎タル行動ト合致セル機動ハ行動目的ノ到達ヲ容易ニシ且ツ優良ナル結果ニ導クモノトス

第五百三十七、機動ハ包圍迂回及ヒ團繞トス

第五百三十八、現時ノ戦闘ニ於テハ正面攻撃ハ困難ニシテ進捗セサレノミナラズ其成果比較的小ナルヲ以テ若シ一翼或ハ兩翼展開セハ翼面ニ對シテ主力ノ行動ヲ轉移スルヲ可トス

第五百三十九、團繞ハ戦闘ノ最大好果ヲ收メ得ヘキヲ以テ攻撃準備ノ理想ナルモ之ヲ行フニハ頗ル優勢ナル兵力ヲ有スルカ或ハ之レヲ行フ為有利ノ形勢ニ在ル時ニ限ルモノトス

一ニハ

第五百四十、攻撃戦用ニ於ケル射撃準備ハ主トシテ砲兵之レ
ニ任スルト雖モ亦可成度ノ小銃火又ハ機関銃火ヲ利用ス
ルニトテ努力ス

第五百四十一、工兵ハ主トシテ堅固ニ築城セラレタル陣地攻
撃ニ際シ本令第二章(陣地戦)ノ規定ニ準據シテ動作ス

第五百四十二、堅固ナル陣地ノ攻撃ニ於ケル工兵ノ行フ準備
作業ハ近接行動間交通路ヲ有スル散兵壕ノ築造ニアリ

第五百四十三、脅威運動ハ敵ノ注意ヲ牽制シテ主攻撃地点ニ
向テスル豫備隊ノ集中ヲ防止スル目的ヲ以テ行ハルモノ
トス脅威運動ハ射撃ヲ以テスル準備敵トノ接近並其脅威マ

シキ方面ニ於ケル決戦ヲ以テ結局ス而テ此最後ノ場合ニ於
ケル動作ハ主攻撃方面ニ於ケル戦用ニ比シ唯少数ノ兵力ト

資材ヲ以テスルヲ異レリトスルノミ

第五百四十四、局勢戦ハ攻撃ヲ進捗スル為メ豫メ敵ノ配置内
ニ於ケル果地又ハ地區ヲ台領スルニ必要ナル場合之レヲ
行フモノトス

軍隊ノ動作
歩兵

第五百四十五、歩兵ノ動作ハ敵ニ近接シ攻撃ヲ以テ敵ノ配置
セラレタル地点ヲ奪取スルニアリ

第五百四十六、此最後ノ決定的戦用行為ハ之レヲ攻撃或ハ進
撃ト稱ス攻撃ノ名稱ハ時トニテ防禦ト區別スル為メ前進ニ
適用スルコトアリ

第五百四十七、近接、晝夜共ニ之ヲ行フモノトス

第五百四十八、晝間敵ニ接近スル場合ニアリテハ指示セラレ
タル境界線ニ停止シ或ハ停止スルコトナク行フ戦用部署ニ

就ケル全隊、運動躍進集結及ヒ以上方法ノ綜合ヲ適用ス、
キモトス

第五百四十九、夜間ノ近接ハ晝間ニ於テ選定標識セシ境界線
ニ向テ豫備ト共ニ運動ス此運動ハ敵トノ距離ニ依リ一夜ヲ
以テ終リ或ハ數夜ニ亘リコトアリ而シテ其ノ通過セシ地域
ハ交通路ヲ有スル要地ヲ設ケテ防備スル

第五百五十、近接方法ノ選擇ハ行動ノ目的及其時ノ情況(敵ノ
距離、地形、天候、火力其他)ニ依ルモノニテ実行者ニ任セ
ラルル而シテ晝間敵ニ對シテ遠距離ニ行フ進撃ハ現代ノ精巧ナ
ル火器ニ對シテ殆ト常ニ不成功ニ終リ目的ヲ達セザルモノ
ナルコトヲ忘惟マシテ之ニ反シ混亂セル力若クハ薄弱ナ
ル敵砲兵ニ對シテ掩蔽地濃霧又ハ吹雪中ニアリテ運動シ或ハ
下意ニ翼面ヲ攻撃シ又ハ準備ナキ敵ヲ攻撃スル等ノ時ニ於

テ最モ熱烈且ツ迅速ニ行動マシ、蓋シ最大ノ成果ヲ收メ得
ルキモノトス

晝間歩兵ノ動作ハ小銃及ヒ機關銃火ヲ伴フモノトス

第五百五十一、近接トハ敵ヨリ最近ノ距離(例セハ五十歩乃至
三百歩)ニ到達スルモノトス

第五百五十二、前項ノ如ク距離ニ近接スルコト困難ナシカ若
シ、突然攻撃ノ目的ヲ以テスル場合ニ於テハ稍ヤ遠距離
ヨリ攻撃ヲ開始スルヲ得、但シ如此場合ニ在リテハ砲兵
ノ援助ノ下ニ於テスルモノトス

第五百五十三、攻撃又ハ進撃ニ在リテハ敵トノ距離ニ依リ並
歩又ハ馳歩ヲ以テ途中絶スルコトナク行進スルヲ要ス

第五百五十四、敵ノ要地ヲ占領シタシ後テ攻撃ヲ行フ部隊ハ
決シテ其ノ占領セシ陣地ニ停止スルコトナク敵ノ砲兵陣地
一三〇

到達スハキ終局ノ目的ニ以テ引續キ敵ヲ壓迫スハシ唯ク
敵ヲシテ其ノ放列ヲ撤去セシムルモ若シクハ之ヲ占領スル
ニ至ラム始メテ茲ニ停止シテ整頓シ其占領地ノ防禦工事ニ
着手スルコトヲ得シモノトス

第五百五十五 歩兵ノ占領セル陣地(一個又ハ數個ノ防禦線ヲ
以テ敵ヲ中断セシトスル場合ニ方リ我砲兵ノ有カナル援助
ヲスカシカシクシテノ場合敵砲兵火ノ為メ其占領地區ヨリ驅逐
セラルルノ危険ニ備ヘテ砲兵ノ不利ト結果ト共ニ
不完備ナル陣地ニテハ防音ノ如キ窮境ニ陥ラシムルモノト
ス

第五百五十六 砲兵ノ動作ノ原則ニ從ヒ歩兵ノ動作ト
全然合致セシムルヲ要ス

第五百五十七 砲兵ノ戰鬥動作ノ戰術ノ有ニル狀況ニ於テ前
面ニテ歩兵ノ運動ヲ保障スル一切ノ物件ヲ除去スルナリ
戰目録ヲ有スルモノニシテ其ノ戰鬥任務死ノ如シ

- (一) 敵砲兵トノ交戦
- (二) 敵ニ對シ我歩兵ノ近接
- (三) 歩兵ノ攻撃(進撃)ヲ援助ス
- (四) 占領セル敵陣地ノ内部又後方ニ於ケル我歩兵ノ運動ヲ安
全ニシ且ツ之ヲ鞏固ナラシム

第五百五十八 砲兵ハ其ノ後方ニ於ケル生活ノ常態ヲ破壊ス
敵陣地ノ射撃目標ヲ決定スルヲ要ス其目標尤ノ如シ
(一) 敵砲兵ヲ沈黙セシメ或ハ之ヲ制壓ス
(二) 攻撃正面ノ全部又ハ特ニ主要攻撃地區ニ於ケル敵ノ小銃及

斯ノ如キ陣地ニ對シテ攻撃準備期間ハ著シク之ヲ短縮スレ
コトヲ得ヘシ

第五百六十二、薄弱ナル人工障礙物若シクハ障礙物ヲ有セザ
ル野戰陣地ノ進撃ハ可成短期間ニ於テ砲兵ノ集中火ニ依リ
準備スルヲ得ヘシ

斯ノ如キ場合ニ於ケル砲兵ノ任務ハ步兵ノ接近スル迄ニ破
壞作業ヲ完了シ且ツ敵ノ心膽ヲ震駭セシメ敵ヲシテ胸墻ヲ
出テ攻撃部隊ノ銃火ニ抵抗スル能ハサラシムルニ在リ此ノ

目的ヲ以テ步兵ノ突撃直前ニ於テ全砲兵ハ一齊ニ射撃ヲ開
始シ漸次其ノ速度ヲ增加シ最大猛撃ニ移ルヘキモノトス

第五百六十三、攻撃歩兵ヲ掩護スル砲兵ハ步兵ノ精神的援助
タルハキ重要ナル任務ナリ此ノ方法ハ只良好ナル形勢ノ時
ノミニ之レヲ適用セラレヘキモノニシテ小部隊(一門小隊)ヲ以

テ實施スルニトシテ得ヘシ然レモ之レヲ為メニハ相當ノ準備
(偵察)アルヲ要ス

第五百六十四、攻撃陣地ノ台領後ハ其ノ台領ヲ確實ニシ不
歩兵ノ運動ヲ安全ナラシムル為メ砲兵ハ台領地區ノ前面及
ト側面ニ於テ射撃ノ限界線ヲ示スルハシ
歩兵運動ノ經過ニ依リ此ノ限界射撃ハ適當ニ之レヲ中止ス
ヘシ

何レノ場合ニ於テモ砲兵ハ送襲ノ為メ敵隊備隊ノ出動ヲ豫
期スル方面ニ對シ射撃限界線ヲ設クヘシ
戰術間敵ノ攻撃ニ對スル我步兵ヲ掩護シ且我台領セシ陣地
ヲ攻撃スル敵砲兵ト交戦スルハ我砲兵ノ重大ナル任務ナリ
トス

第五百六十五、以上指スルニ總テノ動作ヲ為メ、方リ砲兵ノ
一五三

作業(第三百六十四) 進捗 = 算スルモノハ有効ナル監視及以
 撃部隊トノ連絡ヲ安全ニ保ツルアリ之レカ為ノ隨時準備ニ
 シ先鋒砲兵ノ監視兵ヲ適時ニ派遣シ又砲兵ノ位置
 ヲ花火、旗等ニ依リ指示シ或ハ連絡ノ為リ航空機ヲ適用シ且
 上空ヨリ撮影スル等ノ方法ヲ必要トス
 第三百六十六、敵ノ後方生活ノ常態ヲ破壊スルハ鐵道停車場
 普通道路、交叉点、宿營地、倉庫、肝要ナル住民地其他ノ目標ヲ
 掃射スルニ依リテ達セラレモトス砲兵ハ戰間間ニ在リ
 テハ晝夜ヲ詭々ニ目標ノ價值又ハ敵ノ後方ニ関シテ知レル
 情報ニ基キ射撃ヲ行フハシ
 第三百六十七、砲兵ノ任務ヲ遂行スル為各種砲兵ノ性能ニ應
 ジ適宜任務ヲ配當スルヲ要ス即チ尤ノ如シ
 (一) 輕便砲

- (1) 砲兵戰ニ参加ス
 - (2) 治氣ヲ呈セル地点ノ小銃又機關銃火ヲ鎮壓ス
 - (3) 敵ノ側方地區ヲ射撃ス
 - (4) 人工障礙物ヲ破壊ス
 - (5) 砲火ヲ以テ限界線ヲ作ル
- (二) 航空機ト交戦ス
- (1) 輕榴彈砲
 - (2) 支撐点及以側方設備ヲ破壊ス
 - (3) 小銃及以機關銃火ノ鎮壓ニ協カス
 - (4) 砲兵戰ニ参加ス
- (三) 重榴彈砲
- (1) 持ニ堅固ナル設備及以支撐点ヲ破壊ス
 - (2) 敵ノ心膽ヲ奪フコトニ協カス (彈藥ノ消費ヲ慎重ニス)

(四) 砲兵戰之從事ス

(1) 砲兵戰之從事ス

先五百六十八、戰術一般目的達成ニ協力スル以外ニ目的ヲ有
セサル砲兵ノ動作ハ歩砲兵ノ密接ナリシ内外ノ連繫ヲ以テ行
動スル時ニ於テ有利ナリト期待セラレル場合ニノニ実施ス
ルキモノトス

第五百六十九、内部ノ連繫ハ指揮官ノ業務ニシテ且ツ砲兵及
シ歩兵部隊相互ノ援助ニテ外部ノ連繫ハ砲兵ノ勇擔スル
處ナリ然レニ歩兵ニ立有ニテ方法ヲ以テ砲兵ヲ掩護セサル
可カラズ

騎兵、工兵及ヒ技術部隊

第五百七十、騎兵ハ砲兵ト共ニ機關銃又ハ其他ノ附屬部隊
ヲ以テ敵ノ側面又ハ後方ニ對シ勇敢ナル行動ヲ為シ特ニ我
歩兵決戰ニ入ルトキハ乘馬又ハ徒歩戰ヲ以テ其攻撃ニ協力
スルニ而テ敵若レ敗走セハ騎兵ハ追々之ヲ追撃シ又攻
撃効ヲ奏セサル場合ニハ敵ノ前進ヲ阻止スルカ若シクハ少
ナクトモ歩兵ニ整頓ノ時間ヲ與フル目的ヲ以テ斷乎タル行
動ヲ採ルニシ

第五百七十一、總テノ場合ニ於テ敵ノ歩兵又ハ砲兵部隊中ニ
我行動ヲ進捗セシムルニ足ル混乱ヲ認メタルトキハ騎兵ハ
直ニ敵ヲ攻撃シ若シクハ敵ノ駭撃ニ對シ行動スルニ
第五百七十二、敵ノ側面ニ行動スル場合ニ於テハ装甲自動車
ヲ騎兵ニ配屬セシムルヲ有利トス

第五百七十三 正面 = 於テハ騎兵ノ小部隊ヲ以テ行動スルコ

トヲ得ルシ

第五百七十四 工兵部隊ハ自巳ノ特性ヲ以テ他兵種ニ協力ス

即チ陣地ノ偵察ヲ補助シ時トシテハ今障礙物ノ破壊ニ協力

シ他兵種ノ為メ橋梁ヲ架設シ通路ヲ開設シ防禦工事ノ為メ材

料ヲ供給シ台頭陣地ノ障礙物ヲ除却シ又ハ新陣地ノ設備ヲ

指導ス

第五百七十五 装甲自動車及ヒ有障列車ハ歩兵ノ志氣ヲ激勵

鼓舞シ且ツ敵ヲ震駭シテ歩兵ニ偉大ナル援助ヲ與フルモノ

ナリ

第五百七十六 装甲自動車ハ機関銃及ヒ小口径砲ト共ニ攻撃

ニ際シ自己ノ射撃ニ依リ塹壕ヨリ敵ヲ驅逐スル目的ヲ以テ

我歩兵ノ援助ニ努ムモノ自動車砲ハ近距離ヨリ敵ヲ射撃シ

攻撃ニ協力スル其ノモ装甲自動車ハ我軍ノ外側ニ對スル

射撃特ニ敵ノ側面を圍若シクハ迂回ニ協力スルニ

第五百七十七 装甲自動車ハ主トシテ舗石道路ニ於テ使用セ

ラルモノナリ然レモ良好ナル天候ニ於テハ普通ノ道路ノ

ミナラズ為レ得ルハ不意ニ敵前ニ現出スル為メ褶曲セル地

形ノ生地ニ於テモ亦運動スルヲ得ル歩兵ニ密大ナル援助

ヲ與ルモノハ獨リ生地ノミナラス塹壕又ハ鉄條網ヲモ經

由シニ運動シ得ルモノトシテナリトモタニシハ歩兵ノ前方

ニ進出シ以テ敵陣地ニ侵入スル我歩兵ノ為メ其通路ヲ開設

スルヲ要ス

第五百七十八 戦闘ニ於ケル航空隊ノ主要任務ハ所要ノ戦闘

方略ヲ解決スル目的ヲ以テ我制空権ヲ安固ナラシムルニ

リ即チ

- (一) 遠近 搜索
- (二) 砲兵 = 射撃目標ノ指示及準備ノ校正
- (三) 先頭部隊ト指揮官間ノ連絡
- (四) 攻撃間敵ノ放列及軍隊ニ對スル爆彈投下及機関銃射撃

第五百八十九 擲彈部隊ノ攻撃ヲ準備スル為ノ距離ニ於テ使用セラルルモノトシ其要訣ハ下意ニ示スルニ下リトス

第五百八十 軍隊ノ主要兵器ト技術部隊行動ノ合理的綜合ハ最少限度ノ損害ヲ以テ我目的ヲ達成シ得セシムルモノナリ

戰術間ニ於ケル搜索

第五百八十一 搜索ハ戰術ノ全期間ヲ通シ有ニル方法ヲ以テ最モ勇敢ニ中絶スルコトナク之ヲ續行セザル可カラズ歩兵ハ正面前ノ搜索ニ任シ努メテ俘虜ヲ捕獲シ其評問ニ依リテ主要地点ニ於ケル敵部隊ノ状況及陣地ノ性質等ヲ詳ニテ可シ搜索ニ從事スル航空部隊ハ敵後方ノ遠近ニ於テ道路網ニ依リテ運動列車ノ運轉鐵道停車場又ハ住民地ニ於ケル迄氣新野營ノ出現等ヲ觀察シ氣球隊ハ最近ノ後方ヲ偵察スルヲ騎兵ハ又側面ニ於ケル我行動ニ對抗スル目的ヲ以テ進撃スル敵ノ兵力ヲ詳ニシテ重要ナル任務ヲ以テ空閑セル側面ノ搜索ニ從事スルヲ得

第五百八十二 總テ受領セシ情報ハ各指揮官ヲシテ其決心ヲ為スニ際シ行動ノ一致ヲ圖ル為メ自己ノ擔任地區ノ情況ノ

ミナラス可成廣ク正面ノ情況ニ通スルノ必要アルヲ以テ規
則正シク且ツ可成屢々情報ノ交換ヲ行フヘシ

第五百八十三 追撃
攻撃ノ成功ハ果敢ニ敵ヲ追撃シ目己ノ為メニ
畧取セル陣地ニ防禦工事ヲ施スニ至リ終局ヲ告クルモノト

第五百八十四 敵砲火ノ衰弱セルハ敵砲兵ノ退却スル徵候ト
ルヲ以テ時機ヲ失セズ敵ニ接近シアル歩兵ヲ援助シ歩
兵ヲシテ我砲火ヲ利用シテ新陣地ニ前進セシムヘシ

第五百八十五 此前進ハ道時之レヲ準備シ且ツ梯隊毎ニ行フ
ヲ要ス特ニ急速ヲ要スル場合ニテリテハ小隊及ヒ獨立重砲
ヲモ前方ニ急進セシムヘシ

第五百八十六 自己ノ部隊豫備砲兵又ハ戰鬥機械等ニ依リ掩

護セラレシ敵陣地ヲ占領セシ部隊ハ支據点又ハ地物ニ據ル
敵ヲ驅逐シ遂ニ攻撃ヲ撃退シ敵ノ砲兵ヲ包圍シテ之ヲ壓迫ス

ルヲ要ス而テ攻撃ハ敵ノ砲兵陣地ニ到達スルヲ以テ終決シ
次テ追撃ヲ開始ス戰場ニ於ケル追撃ハ豫備隊騎兵及ヒ戰鬥

機械ヲ以テ之ニ任スルモノトス
第五百八十七 戰場外ニ退却セル敵ニ對スル追撃ハ行軍縱隊

ヲ以テ行フモノニシテ其前衛及ヒ騎兵ハ直接ニ當ルモノ
トス而テ前衛ニハ小隊及ヒ獨立重砲ヲモ配屬スルヲ有利ト

シ騎兵ニハ装甲自動車ヲ附屬セシムヘシ
第五百八十八 前衛及ヒ騎兵ハ並行追撃ヲ為ス。努メツツ

同的行動ヲ採リ騎兵ハ並行追撃ヲ為シツツ勉メテ敵ノ退却
縱隊ノ先頭ニ打撃ヲ加ヘ敵ノ運動ヲ遲滞セシムルヲ為メ渡船

場ヲ破壊シ又ハ伏兵ヲ設クヘシ

第五百八十九 航空機ハ敵ノ退却部隊ニ爆弾ヲ投下シ尚ホ機
関銃ヲ以テ行動ス

第五百九十 廣キ正面ニ出テタルトキハ晝間ノミナラズ夜間
ニ於テモ攻撃ヲ実施シテ通過セル陣地ニ於ケル敵ノ抵抗ヲ
確カヘシ此進撃ニ際シテハ獨立セル縱隊間ニ在リテ未ダ右
領セラシサシ中間地ニ顧慮スルコトナク進撃部隊ヲ最モ緊
要ナル方向ニ集結スル進撃ハ戰術行動上自然ニ生スルヲ
臨時駐止ノ時期ヲ利用シテ休憩シ晝夜兼行実施スル而シ
テ前衛ハ主力部隊中ヨリ之ヲ交代セシムルヲ必要トス此
際砲兵ヲシテ其所屬歩兵ニ連レサラシメニカ為メ破壊セラ
レタル橋梁ハ速ニ之ヲ修理スルヲ緊要トス

進撃ヲ安全ニスルコト

第五百九十一 戰術ニ從事シアル軍隊ハ隣接軍隊隊配運砲
兵火及ヒ地形ノ境界線等ニ依リ其側面及背後ヲ安全ナラシ
ムルヲ要ス

第五百九十二 戰術中側面及ヒ背後ノ警戒ハ瞬時ト雖モ之レ
ヲ忽ニスルカラズ然ラサレハ獨リ戰勝ノ成果ヲ失フノミナ
ラス我軍隊ヲ危地ニ陥ラシムルモトス

第五百九十三 不成功ノ場合ニ於ケル行動
不成功ノ場合ニ於テハ當日再ヒ總攻撃ヲ計畫
スルニト困難ナリ然レモ既ニ占領セル支拂点及ヒ出發線ハ
難戰苦闘セル部隊ヲ夜中ニ交代センメテ攻撃ヲ再興スル目
的ヲ以テ之ヲ支持ニ努ムル
此難戰期間ニ於ケル砲兵ノ任務ハ砲火ヲ以テ歩兵ノ退却ヲ

掩護シ敵ノ總攻撃ニ移ルヲ阻止シ且ツ敵ノ支持セル陣地ヨリ前方ニ出動スル部隊ノ反撃ニ對シ防護スルキモノトス
 再興セル攻撃不結果ニ終ルトキ其戦術ヲ示威運動トナシ
 更ニ敵ノ配遣セル他ノ地區ニ對シ攻撃ノ方向ヲ轉スルヲ適
 當トス

七 遭遇戦

原則

第五百九十四 進軍ノ際敵ト衝突シテ發生スル戦術ヲ遭遇戦トス

第五百九十五 遭遇戦ニハ豫期戦及不期戦ノ二テリテ不期戦ハ彼我河シカ一方若クハ兩者共ニ之ヲ豫期セザルニトアリ

場合アリ

第五百九十六 下期の遭遇戦ハ戦術接觸ニ到ル迄互ニ敵ヲ見セザリシモノニテ彼我河シカ一方若クハ共ニ搜索不良

ノ結果ニ過キザルナリ

第五百九十七 遭遇戦ノ特徴左ノ如シ

- (一) 情況不定及不明瞭ニシテ偶発的ノ事項多キコト
- (二) 敵ヲシテ受傷的行動ニ出テシタル目的ヲ以テ互ニ機先ヲ争フコト

(三) 決心及迅速ナル行動ニ要スル時間ノ如何ハ戦術ノ勝敗ニ重大ナル關係ヲ有スルコト

(四) 敵ノ準備整ハサル有利ノ時機ニ於テ敵ヲ攻撃シ得ルト同時ニ我準備未ク成ラザルニ戦術ヲ餘義ナクセラレニト

第五百九十八 遭遇戦ニ於テ勝利ヲ得ルノ要訣左ノ如シ
 (一) 敵ノ前衛及主力ノ展開ニ先ニスルニト

- (一) 最も急速にして砲兵ノ射撃開始
- (二) 巧妙にして機動及び敵ノ翼面ニ對して歩兵ノ勇攻にして壓迫
- (三) 又其ノ翼面又ハ背面ニ於ケル騎兵ノ壓迫
- (四) 良好にして迅速にして形勢ノ判断
- (五) 行動ノ一般目的及情況ニ應ジテ断ヲ以テ勇攻にして決心ヲ

行動ノ基準

第五百九十九 前衛ノ前方ニテ行動スル騎兵ハ唯稀ニ縦隊指揮官ヨリ適時其戰術任務ヲ授ケラレモトス

第六百 縦隊指揮官ハ高級指揮官ノ意圖ヲ解ク了解シテ別ニ命令ヲ待タズシテ断ヲ以テ決心ヲ為スヲ要ス

第六百一 騎兵ニ依リ境界線ヲ支持スルハ前衛ノ接近ニ未レ間ニ於テ主力ヲ展開セシムルニ有利ニシテ著シク前衛

ノ行動ヲ容易ナラシムルモトス

第六百二 騎兵ニ依リ適時敵ノ翼端運動ノ方向及び其縦隊ノ

第六百三 前衛指揮官及び騎兵ハ最初往々敵情ノ概況ニ基キ

下部置セラシムトテ然レバ敵ニ関スル情報ノ不備不足

第六百四 遭遇戰ニ際シテ第一緊要ナルハ前衛ヲ以テ展開ニ有

利ナル地物ヲ台領維持スルニテ力ヲ最有利

第六百五 亦緊要ナリ

第六百五 此任務ヲ遂行スルニ方テ前衛ハ小銃及ヒ機関銃火

ヲ以テ掃射セラシムル中其戰術配備ヲ止ムルニト

ヲ躊躇ムルコトナリ緊要ナル地物ヲ台領シ廣ク正面ニ於テ

展開マハシ

第六百六、前衛ニ多数ノ機関銃ヲ有スルトキハ大ニ其行動ヲ容易ナラシムルモノトス

第六百七、騎兵及ヒ前衛ニ配備スル装甲自動車ハ搜索、緊要ナル地点ノ占領維持及ヒ敵ノ進撃部隊ノ拒止等ニ協カスヘシ、

第六百八、廣キ正面ヲ取リ或ハ旺盛ナル前衛各兵種部隊ノ行動及ヒ重砲ノ配備(榴弾砲、重砲)等ハ敵ヲシテ其ノ對抗セル兵カヲ誤解セルノ依テ以テ敵ノ行動ヲシテ受働的タラシムルモノトス

第六百九、主力ハ直接行軍縦隊ヨリ戦用展開スレテ而シテ大部隊(聯隊迄ヲ含ム)ハ之レト同時ニ自己ノ戦用任務ニ関スル命令ヲ受クルルコトヲ得ヘシ

第六百十、主力ハ搜索ノ終了スルト同時ニ戦用ニ入ルヲ可ト

第六百十一、縦隊指揮官ハ前衛ノ先頭又ハ主力ト共ニ位置スルヲ要ス良好ニシテ迅速ナル調査ヲナス目的ヲ以テ前衛ノ先頭ニ在ル高級指揮官ハ前衛行動ノ細部ニ互リ干渉スルコトナリ

第六百十二、通常遭遇戦ノ形勢ハ不定ナルヲ以テ敵ノ前進ニ関スル情報ヲ得タリトキハ直ニ搜索ノ方法ヲ増大スヘシ

第六百十三、前衛司令官及ヒ騎兵指揮官等ノ直接搜索

(一) 前衛司令官及ヒ騎兵指揮官等ノ直接搜索

(二) 神助騎兵搜索隊ノ派遣

(三) 神助騎兵搜索隊ノ派遣

(四) 神助騎兵搜索隊ノ派遣

(五) 神助騎兵搜索隊ノ派遣

(三) 自動車、自動自轉車、自轉車等。依り參謀部員ノ搜索
(四) 航空機又ハ繫留気球ニ依り空中搜索及ヒ敵ノ空中搜索妨
害ノ目的ヲ以テスル敵航空機ノ破壊

第六百十三、前衛ノ行動、搜索、主力ノ展開及ヒ砲兵ノ出動等ハ
互ニ相阻礙スルニトナリ實施スルニシ

第六百十四、敵ノ翼面及ヒ背面ニ於ケル勇敢ナル騎兵ノ行動

ト相俟テ敵ニ先ニシテ展開ヲ完了シ且銃機関銃砲火ノ一齊
射撃開始ハ敵ニ對スル我行動ヲ有利ナラシメ敵ヲシテ防禦

ノ餘儀トナシ到ラシムルモノニシテ之ニ依リ遭遇戦ノ第一
要訣タル機先ヲ制シ敵ノ行動ノ自由ヲ奪フ目的ヲ達成シ得

第六百十五、敵ニ對シ一度機先ヲ制スルハ防備未タ整ハサル
敵ヲ攻撃シ速ニ之ヲ撃破スルノ第一ノ任務ヲ達成スルニシ

第六百十六、遭遇ニ於テハ右ノ目的ニ依リ勇斷果決ノ行動ヲ
採ルニト緊要ナリ

第六百十七、若シ敵我ニ先ニシテ展開セルハ前衛ハ我主力

ノ展開展開ニ必要ナル時間ト場所ヲ安全ナラシムル目的ヲ

以テ敵ノ進撃ヲ阻止スルニ努ムルハ展開ヲ終リタル後縱隊

指揮官ハ第六百十四及ヒ第六百十五條ニ於テ指示セラルルタ
ル任務ノ解決ニ努ム可シ若シ請般ノ情況之レヲ為スニ不利

ナルハ縱隊ヲシテ受働的位置ニ導カサルヲ要ス

八 防禦戰闘

原則

第六百十八 防禦戰闘ノ目的ハ敵ノ攻撃ヲ擊退シテ自己ノ配
置ヲ維持シ或ハ我カ進撃行動ニ轉スルノ準備ヲ為シ又ハ時間
、餘祐ヲ得ルニアリ

第六百十九 陸地ノ守兵ハ如何ニ敵ノ砲火猛烈ナル場合ニ於
テモ何人ト雖モ命令ナク塹壕ヲ放棄スルヲ許サス

第六百二十 我カ兵力ヲ保護シ且ツ敵ニ多大ノ損害ヲ與フル
ハ即チ防禦戰闘ノ基準トセサル可カラス

第六百二十一 防禦ニ際シテハ独リ敵ヲ擊退スルヲ以テ足レ
リトセス進シテ攻撃ヲ行フヘシ防禦ノ最良ナル方法ハ自ラ敵

ニ対シ襲撃ヲ試ムルニアリ
第六百二十二 歩兵ハ銃ヨリモ匙鍬ヲ多ク利用セサル可カラ

又第六百二十三 總攻撃ニ移ルハ高級指揮官ノ命令ニ依ルモ
ノトス

陣地ノ選定及ニ構築

第六百二十四 陣地ハ回上ニ於テ之ヲ選定シ現地ニ就キテ之
ヲ選擇決定ス若シ行動ノ關係上豫メ陣地ヲ偵察スル能ハサル
トキハ地圖ニ依リ總テノ部署ヲナスヘシ而シテ陣地ノ偵察ハ
其最近ノ指揮官(聯隊長迄ヲ含ム)之レヲ行ハ高級指揮官ハ成
シ得ル限^無初ノ時機ニ於テ之ヲ為スヘキモノトス
第六百二十五 陣地ノ選定ニ際シテハ砲兵陣地ノ適否觀測所
ノ性質後方トノ交通ノ便否後方ニ於ケル軍隊ノ運動並展開
ノ便否ニ對シ主要ナル注意ヲ拂フヘシ
第六百二十六 射撃陣地ハ敵ノ認識ヲ困難ナラシムル為甚ク
シク周圍ヲ敞開セル地物又ハ遠距離掃射ノ效力ナキ場所ハ之

レヲ避ケルヲ要ス而シテ時トシテハ高地ノ反対斜面ニ歩兵ヲ
配置スルコトヲ得

第六百二十七 歩兵ノ火力ハ縦ニ直射ニアリテモ射界ヲ有ス
ルトキハ充分ナル效力アルヘキモノトス

第六百二十八 上長ヨリノ命令ニ依リ若シクハ防禦ヲ決心セ

ル高級指揮官ハ其ノ計畫ニ基キ部下各部隊長(地區總隊備砲
兵騎兵技術隊等)ニ任務ヲ與ヘ地區ノ境界(境界線)ヲ定メ

側面ノ監視警戒法ヲ規定スヘシ尚要スレハ後方ノ監視警戒又
ハ連絡ノ方法等ヲモ定ムルヲ要ス

第六百二十九 高級指揮官ハ自己ノ決心ハ之ヲ命令ヲ以テ表
示スヘシ(附録第十三)

第六百三十 各戦闘地區指揮官モ亦同シク其地區ノ軍隊ニ自
己ノ命令ヲ交附スヘシ

第六百三十一 隊ノ陣地ヲ構成シアラサル時ハ陣地ノ構築及
之カ完備ハ陸地ノ占領ト同時ニ着手スルヲ要ス
第六百三十二 陣地ハ目的情況及ニ防禦戦闘原則ニ應ジテ之
レヲ構築スヘシ

第六百三十三 我行動ノ目的ハ陸地ノ構築法ニ大ナル關係ヲ
有ス即チ時間ノ餘裕ヲ得ントスル防禦ニ在リテハ多數ノ未占
領地間ニ通路ヲ有スル壕ヲ構築スルノミヲ以テ足レリトスル
スルモ強ナル防禦ヲ爲サントスル陣地ニ在リテハ工兵技術
ノ規定ニ據リ構築セラルル複雑ニシテ且中斷スルコトナキ塹
壕ノ構築ヲ必要トス

第六百三十四 情況(兵力、時間、地形、敵ノ企圖等)ハ陣地構築ノ
擴張並之カ完備ノ形式及部隊ノ編成ニ影響ヲ及ホスモノトス
第六百三十五 防禦戦闘ノ原則ヲ満足セシムル爲メ左ノ如キ

陣地ヲ構築スヘシ

(1) 軍隊ノ損害ヲ減少シ且攻撃ノ瞬時迄志氣ノ沮喪ヲ豫防スル
爲壕ヲ深クシ避難所通路ヲ設ケ地上又ハ空中搜索ニ對スル
掩護ヲ設ケヘシ

(2) 猛烈ナル火力ヲ發揚スル爲メ小銃及ヒ機關銃ノ十字火ヲ以
テ陣地ノ前地ヲ覆ヒ得ル如ク計畫シ側防設備及機關銃掩護
ノ盲障ヲ設ケ且ツ我火力ノ下ニ可成永ク敵ヲ抑留シ敵ノ突
撃ヲ防止スル目的ヲ以テ人工障碍物(鉄條網、鹿柴等)ヲ設ケ
ルヲ必要トス

(3) 頑強ナル防禦ヲ爲シ又失ヒタル地區ノ奪還ニ協力スル爲メ
深ク陣地ヲ擴張シ且ツ遮蔽物及ヒ後方ニ於ケル防禦工事並
ニ善ク設備セル監視哨等ヲ以テ之ヲ補足スヘシ而シテ後方
ニアル塹壕ハ可成前方ノ塹壕ニ到ル迄ノ中間地帯全部及ヒ

陣地ノ前方ニアル地帯ヲ小銃及ニ機關銃ニ依リ掃射シ得ル
如ク設備スルヲ要ス

(四) 陣地ノ構築ハ其形式一様ナルモノニテ主抵抗陣
地及ニ中間地ノ結合点ハ最モ堅固ニシテ構築スルヲ要ス
第六百三十六以上ノ原則ニ從ニ構築セラルル陸地ハ抵抗結
合点ニ於テ特ニ探ク擴張セル縦横ノ塹壕線ノ集合ヨリ成レル
觀ヲ呈ス而シテ塹壕ノ集團間ニハ多クノ断絶地ヲ存ス可カラ
ス若シ地形上已ムヲ得ズ未占領ノ中間地ヲ存スルトキハ此ノ
地域ヲ猛烈ナル十字火側射撃火ノ下ニ置キ且ツ歩兵ノ監視
所又ハ砲兵ノ觀測所ヨリ之ヲ通視シ得ルヲ必要トス
第六百三十七陣地構築ノ外面要スルハ射界ヲ清掃シ且陣地内
部ニ於ケル運動ヲ容易ナラシムル為メ障礙物ヲ除去スヘシ
有效ナル射撃ヲナス為メ陣地ノ前面及ニ側防ノ地區ニ存在ス

ル境界線又ハ各種ノ地物ニ至ル距離ヲ測定シ置クヲ肝要トス
若シ前方地点ノ占領ヲ有利トスルトキハ該地点ハ我カ陣地ヨ
リスル有效ナル砲兵火ヲ以テ射撃シ得ルト共ニ我防禦軍隊ノ
行動ヲ妨ケサル地点ナルヲ要ス

第六百三十八 陣地ノ擴張並其完備ノ程度ハ時間所有スル材
料地質季節及ニ其時ノ情況ニ依ル而シテ其作業ハ最モ緊要
ナルモノヨリ順序正シク着手スヘキモノトス

- 第六百三十九 作業工程ノ緩急ハ尤ノ如キ順序ニ從テ要ス
- (一) 第一線ノ塹壕及ニ抵抗結合点ハノ通路ノ設置
 - (二) 正面前ニ於ケル人工障礙物ノ構築
 - (三) 守勢地ニ於ケル比隣塹壕及補助交通路ノ連絡
 - (四) 第一線ニ避難所ノ設置
 - (五) 第一線諸設備完成

- (六) 順次ニ第一線ヲ設置ス
 - (七) 障壁、構築及ニ防禦用通路ヲ兩側ニ設ク
 - (八) 抵抗結合点ノ防禦工事ノ強大
 - (九) 順次ニ陣地ノ深キヲ擴張シ既成線ヲ完備ス
- 第六百四十一 軍隊ハ其所定ノ地區ヲ占領シテ塹壕ニ兵員ヲ配置シ以テ陣地ノ構築ニ着手ス適時陣地ヲ占領セル際敵ト著ク遠隔セル時ハ軍隊ヲ陣地ノ附近ニ配置シ該地ヨリ軍隊ヲ陣地ノ構築作業ニ派遣スルコトヲ得ヘシ

軍隊ノ行動

歩兵

第六百四十一 機閉銃ヲ有スル歩兵ノ陣地區處
 第六百四十一 陣地ニ於ケル歩兵ノ配置ハ陣地ヲ強固ナラシムル目的ヲ以テ我目的情況及ニ防禦原則ニ適合セシムルヲ要ス

第六百四十二 嚴密ニ適合シ且ツ巧ニ実施セラレタル歩兵及ニ機閉銃ノ配置ハ防禦進歩ノ要訣ナリトス

第六百四十三 第一線ノ防禦ハ主トシテ砲兵火及ニ機閉銃火ヲ以テス故ニ第一線ニハ必ス所要數ノ中隊ヲ配置シ殘餘ノ部隊ハ各種名稱ノ豫備トシテ梯隊ニ之ヲ配置スヘシ

第六百四十四 第一線ニハ中隊ノ機閉銃ヲ配置シ尚要スレハ大隊或ハ聯隊ヨリ之ヲ増援ス而シテ之レカ配置ハ陣地ノ正前面ノ全地域ヲ側射又ハ十字火ノ下ニアラシムル如クスルヲ要ス

第六百四十五 機閉銃ハ其數ノ多キニ從ヒ塹壕ニ於ケル射手ノ數ヲ減スルヲ得ヘシ射擊線ニ於ケル射手ハ通常四歩ニ一名割合トス

第六百四十六 機関銃ノ配置及之カ使用ノ管理ハ聯隊長之シ
ニ任スルモノトス

第六百四十七 戦闘ヲ豫期スル場合ニ於テハ攻撃地區ニ對シ
増援ヲ行フヲ要ス而シテ第二線第三線障壁支撐矣等近ク後方ニ
アルモノハ豫部隊ヲ以テ之ヲ占領スルニ蓋シ陣地内ニ深ク梯
隊ニ配置セラレタル部隊ハ適時之レヲ占領シ得ルヤ否ヤ不明
ナルヲ以テ全ク無益ニ終ルノ恐レアルカ爲メナリトス
第六百四十八 後方ノ線ニ配置セラレタル軍隊ハ敵ノ攻撃
退ニ参加スルモノトス故ニ速カニ逆襲ニ移リ得ル準備ニアル
ヲ必要トス又戦闘ニ際シテハ遠隔シアル豫隊モ亦逆襲ニ移ル
諸準備ヲ整ヘ銃ヲ手ニスルキモノトス
第六百四十九 如何ニ堅固ナル陣地ト雖モ陣地ハ自ラ自己ヲ防
禦シ能ハサルモノナリ事ヲ堅ク銘心スルニ

第六百五十 陣地ハ何レモ平等ニ之ヲ占領ス可カラズ即チ抵
抗結合点ハ其占領ヲ最モ堅固ナラシメ又其中間ヲ占領セル部
隊ニハ多数ノ機関銃ヲ配属シテ薄弱ニ占領ス大隊豫備ハ之ヲ
第二線ニ配置シ聯隊豫備ハ其他ノ線ニ若シ之レナキトキハ掩
蔽地ニ配置ス可シ

第六百五十一 敵砲兵ノ準備期間ニ於テハ唯夕歩哨監視兵
直機関銃及ヒ直部隊ノ之ヲ以テ第一線ノ塹壕ヲ占領シ残
餘ノ前線守守兵ハ避難所ニアリテ掩蔽スルニ斯クノ如クシテ
敵重砲火ヲ遠ク我カ背面ニ轉シ以テ敵歩兵ノ進撃ノ瞬時ニ
至リ射手ハ速カニ避難所ヲ出テ射撃線ニ就クハニ
第六百五十二 豫備ハ蓋敵ニテ之ヲ配置シ敵火ノ爲メ損害ヲ
蒙ルヲサレ如クスルニ常ニ敵火ヲ誘致スル独立家屋森林窪
地及ヒ地隙等ハ之レヲ避カルヲ要ス

第六百五十四 後方ニ於テ占領セル然テ陸地ハ特ニ任定
ラレタル指揮官ノ責任ニ屬ス

第六百五十五 歩兵指揮官(旅団聯隊大隊ノ諸長)ノ監視
ハ我指揮官自ラ能ク其隷下部隊ヲ指揮シ得ル程度ノ距離ニ於
テ之ヲ選定スヘシ

之等監視矣ハ可成廣ク周囲ノ土地ヲ監視シ統ニ敵火カ激烈ト
ル時ニ於テモ前線及ヒ豫備並ニ比隣トノ連絡ヲ存シ得ルヲ緊
要トス

第六百五十六 側面敵開シアルトキハ騎兵及ヒ交戦軍隊ノ兵
力ニ比例スル特種ノ部隊トテ以テ側面ヲ掩護スルヲ要ス此場
合総豫備ハ梯隊ヲ以テ主要ナル側面ノ後方ニ配置シ尚其一部
ヲ稍々緊要ナル側面ノ後方ニ分遣スヘシ而シテ陣地ノ一側面
ト雖モ若シ安全ナル地形ヲ有スルハ有利ニシテ而モ退却又ハ

攻撃行動ヲ便ナラシムルコト少ナカラス

攻撃撃退

第六百五十七 防者若シ敵ノ火力ヲ制壓シ自己ノ砲兵機關銃
及ヒ小銃火ヲ以テ敵ヲ激撃シハ最モ猛烈ナル攻撃ト雖モ尚ホ
能ク之ヲ撃退スルヲ得ハシ

第六百五十八 塹壕ニ侵入スル敵ハ遂ニ死地ニ陥ルヲ以テ良
ナル場合ニ於テハ之ニ多大ノ損害ヲ与フルモノナルコトヲ
念ヒ此目的ニ向ヒ邁進スルヲ緊要トス

第六百五十九 射撃ヲ以テ敵ノ攻撃ヲ撃退セル戦闘地区ニ
ル軍隊ハ好機ヲ利用シテ混乱セル敵ノ部隊ニ對シ逆襲ヲ行フ
要ス逆襲ニ成效セル部隊其占領地区ノ地区ノ地形我軍ニ有

利ナルカ若シクハ總進撃ニ移ルニ容易ナルトキハ此隣部隊ト
協力シ之ヲ確保シ益々進歩ノ歩ヲ進ムルヲ要ス

第六百六十 軍隊ヲ避難所ニ誘蔽セルトキハ(第六百五十一
射手及ニ機関銃ヲ以テ適時射撃線ヲ占領シ且ツ其占領ヲ絶体
全ナラシムル為ニ塹壕後方及ニ側面ノ諸要点ヨリ戦場ヲ監視ス
ハニ機関ヲ設ケルヲ緊要トス

第六百六十一 猛烈ナル敵火ノ為ニ守兵塹壕ヲ退却シ或ハ我敵
情監視機関ノ不備並射手ノ迅速ナル射撃線ハノ復帰方法ノ適
用不備ナル等ノ為ニ遂ニ塹壕ノ全守備兵捕虜トナリ陣地ヲ喪
失スルニ至ルコトアルヲ以テ之等ノ方法適用ニ関シテハ特ニ
慎重ナル考慮ヲ要ス

第六百六十二 敵ノ重砲火ハ守兵ヲシテ塹壕避難所又ハ通路
内ニ於テ安全ニ止ムルコト能ハサラシメ進退ヲ合マラシムル
カ如キ偉力ヲ發揚シ得ルモノナルヲ以テ斯クノ如キ場合ニア
リテハ猛烈ナル敵火ヲ受ケル塹壕ノ地區ヲ一時放棄シ其守兵

ヲ前方又ハ側方ニ避
シムルハ却テ猛烈ナル敵火ヲ避ケ得ルモノトス而シテ斯ノ如
キ機動ニ際シテハ其放棄セル地區ノ戦況ヲ監視スル為ニ特ニ
注意ヲ拂ハサルヘカラス

第六百六十三 火力ヲ顧サル敵ハ遂ニ我塹壕ニ突入シ来ルヘ
キヲ以テ此際砲兵其塹壕ニ突入セル敵及ニ之ニ銃ヲ末ニ豫備隊
ノ中間ニ向テ射撃牆壁ヲ作ルヲ要ス又步兵ハ小銃及ニ機関
銃ヲ以テ正面又ハ側面ヨリ突進シ来ル敵ヲ猛射シ又側面ニ集
合セル部隊ハ最近ノ援隊ト共ニ塹壕ヲ奪還シ敵ヲ撃退スル目
的ヲ以テ命令ヲ待ツコトナク攻者混乱シテ未タ其ノ整頓終ラ
サルニ至ル速ニ逆襲ヲ行フヘシ而シテ最後ノ接戦ニアリテハ
擲榴彈又ハ銃鎗突撃ヲ利用スルヲ要ス

第六百六十四 右ノ方法ヲ有効ナラシムル為ニ砲兵及ニ

步兵ハ絶大ノ注意ヲ以テ純ヘス戰場ヲ監視スルヲ要ス
第六百六十五 第一線ニ於テノミナラス第一線ノ後方又ハ其
附近ニアリテモ亦以上ノ方法ニ依リ戦闘スヘキモノトス
第六百六十六 若シ第一線ニアル軍隊ニシテ最近ノ援隊ト共
ニ退却スルカ或ハ敵ヲ抑止シ能ハサル状態ニ陥リタル時ハ豫
備隊特ニ側面ヨリ集結シタル豫備隊ヲ以テ敵ノ防禦工事未タ
進捗セサルニ乘シ或ハ若干ノ支撐点及ヒ陣地尚我有ニ存スル
間ニ於テ敵ヲ攻撃スルヲ要ス
第六百六十七 第一線ニ在ル各戦闘員ハ假令困難ナル状態ニ
於テモ尚能ク其位置ヲ維持シアル時ハ此間離離ニ包圍スヘキ有
利ナル諸般ノ行動ヲ執リ之ニ依リテ我ニ逆襲ノ好機ヲ與ヘ以
テ自己ヲ救出セシメ得ルコトヲ確信シ苟クモ其手ニ武器ノ存
スル限り奮闘スヘキモノトス

第六百六十八 逆襲ノ成功ハ軍ニ部隊ノ数ノミニ関セス軍隊
ノ士気戦闘法迅速ナル行動ノ如何ニ依リ決セラルルモノトス
第六百六十九 若シ速ニ形勢ヲ挽回スルコト能ハスレテ而カ
モ喪失セル地區ノ奪還ヲ必要トスル場合ニ於テハ嚴密ニ準備
セラレタル攻勢ヲ取ラサルヘカラス此ノ攻勢ハ既ニ攻撃戦闘
ニ移ルモノナリトス

戦闘間ノ連絡

第六百七十 戦闘地區及ヒ後方間ノ連絡ハ直屬指揮官並砲兵
指揮官ニ報告ヲ傳送スヘキ主要ナル目的ヲ有ス猛烈ニシテ永
續スル砲兵射撃ノ間ニ於テハ連絡ハ頗ル困難ナリト虽モ亦極
メテ緊要ナルヲ以テ之カ爲メ監視哨ヲ巡視ニ報告傳送ノ
爲メ射撃ノ中間ヲ利用シテ速カニ破壊セラレタル電線ヲ修理
シ且ツ航空機ヲ利用スル信号法或ハ照明火箭ヲ適用シ又ハ
一五二

歩連絡法等ヲ設クヘシ

第六百七十一 歩兵及砲兵ハ互ニ連絡兵ヲ交換スヘシ

第六百七十二 戦況報告ノ受領ハ右ノ方法ニ據リテ其安全ヲ保持セラルモトス又一般ノ情况ニ関シテハ上級指揮官ハ航空機又ハ気球ヲ利用スルト共ニ搜索隊ヲ使用シ以テ良ク之ヲ調査シ得ヘシ

砲兵

第六百七十三 防禦ニ於ケル砲兵一般ノ任務ハ敵歩兵ノ攻撃ヲ阻止スルニアリ而シテ其各別ノ任務尤ノ如シ

(一) 攻撃ノ為其發起ヨリ我カ陸地ニ向ヒ接近シ来ル敵ノ歩兵ヲ撃破ス

(二) 敵砲兵ト交戦ス

(三) 我陸地ニ對シ攻撃(突撃)ニ来ル敵ノ撃退戦ニ参加ス

(四) 敵ノ戦闘機関即チ装甲自動車及ヒカニクテ撃破ス

(五) 我歩兵ノ攻勢移轉ヲ援助ス

(六) 敵ノ後方地域内ニアル目標及ヒ交通路ヲ撃破ス

砲兵ハ敵歩兵ノ運動ヲ嚴重ニ監視シ豫メ試射ヲ行ハル境界線隘路橋梁其他ノ地真ニ於ケル敵歩兵ノ通過又ハ遮蔽セル窪地及ヒ其他ノ場所ニ於ケル敵歩兵集中ノ際等ニ於テ之ヲ撃破ス

ルニ有利ナル機会ニ乘シテ敵ノ歩兵ヲ射撃ス又出来得ル限リ隨時射撃ヲ行ヒ得ル如ク諸準備ヲ整ヒ射界ヲ擴張スルヲ必要トス

第六百七十五 敵砲兵ヲ滅滅セントスル秩序的砲兵決戦ノ為

モノトス故ニ機動戦ニ於テハ唯タ大部隊行動ノ際ニ於テノミ

メニハ多大ノ時間及彈薬ノ外尚航空機気球等ノ援助ヲ要スル

斯ク、如キ決戦ヲ實現シ得ルモノナリ然レトモ防禦砲兵ハ常ニ可成多ク敵ノ砲火ヲ薄弱ナラシメ之レヲ殲滅シ能ハサルモ何レノ場合ニ於テモ能ク之ヲ沈黙セシムルヲ緊要トス而シテ之ヲ進捗セシムル為メ瓦斯彈(化學的)ヲ適用スルヲ得ヘシ第六百七十六 敵ノ攻撃ヲ擊退スル為ニハ敵兵最モ頑強ニ又ハ最モ進捗シテ前進シ来ル地區ニ對シ射撃障壁ヲ作ルヘシ此射撃ハ砲兵ノ注意又ハ歩兵ノ要求ニ依リ開始セラルルモノトス

第六百七十七 装甲自動車及ヒ坦克トノ主要ナル交戦方法ハ各種砲兵ノ参加ナリトシテ之レカ為射撃セル砲彈該機械ニ直接落トスル如ク近距離ニ於テ直射スルヲ緊要トス此ノ交戦ニ於テ必要ナル準備ハ前面ノ地區ニ於ケル所定ノ箇所ニ放列ヲ配置シ且ツ射撃照準ヲシテ正鵠ナラシムルヲ要ス充分ナル時間ノ

餘祐アルトキハ往々斯ノ如キ交戦ニ於テ隨時所要ノ地矣ニ獨立砲隊ヲ配置シ行動ノ瞬間迄之レヲ遮蔽スルヲ有利トスルコトアリ

第六百七十八 逆襲ヲ援助スルニ際シテハ防禦砲兵ハ先ツ攻撃スル敵歩兵ヲ撃破シ次テ敵ノ豫備隊ノ進出ヲ拒止スル為メ其背面ニ砲火ヲ轉スヘシ

第六百七十九 背面ノ掃射ハ敵ノ後方ニ於ケル司令部、豫備隊、砲廠、倉庫、道路ノ結合點、鐵道停車場等ヲ破壊シ以テ敵ノ運動ノ自由ヲ奪ヒ其安寧ヲ破ル目的ヲ以テ遠距離射撃砲ヲ使用スヘシ

斯ノ如キ射撃ハ敵ノ背面ニ於テ活氣ヲ呈セルトキハ夜間トモモ之ヲ實施スルヲ得ヘシ
第六百八十 敵ノ空中艦隊ト交戦スル為メニ專門ノ航空射撃

一五四

砲兵其任=当ルモノトス然レトモ若シ其ノ数不足ナルカ或ハ
該砲兵存在セサルトキハ軍隊ノ有スル一般砲兵部隊中ノモ
ヲ以テ之ニ任セシムヘシ

第六百八十一 砲兵陣地第一線ノ步兵ヨリ甚シク遠隔シアル
時ハ砲兵所定ノ戦闘任務ヲ遂行スル為メ支障少カラサルヲ
以テ斯クノ如ク遠隔スルハ通常之ヲ禁スルヲ要ス

第六百八十二 防禦砲兵ハ其一般任務ヲ遂行スル為メ常ニ其
防禦ニ際シ有スル時間ヲ充分利用スルヲ要ス即チ

- (一) 可成綿密ニ陸地及ヒ其前方ノ地形ヲ偵察ス
- (二) 可成充分地形ヲ利用シテ射撃ノ能率ヲ高メ且ツ地形ヲ應用
シテ敵火ニ対スル良好ナル掩護ヲ作ルヘシ
- (三) 各種砲兵隊ノ射撃ヲ統一シ必要ナル集中火ヲ行フニ適當ナ
ラシム

(四) 側面間接及ヒ十字射撃ヲ廣ク適用シ得ル如ク砲兵隊ヲ適當
ニ配置シ以テ掩蔽セル接近路又ハ地區ヲ安全ヲラシメ且ツ

敵ノ突撃ヲ撃退スル為メ其接近路ノ射撃ヲ容易ナラシム

(五) 地上及ヒ空中偵察ノ機關ヲ設ク

(六) 廣ク且有效ナル連絡ヲ設ク

(七) 境界線接近路及ヒ敵軍ノ集中(豫期スル)ニ得ル場合等ニ対
スル砲火ノ效力ヲ審査シテ射撃ヲ準備ス

(八) 監視哨ヲ設ケ且ツ砲兵陣地ヲ遠蔽ス

第六百八十三 騎兵ハ(一)開濶セル側面ニ於テ行動シ又敵地深
ク侵入スル場合ニ在リテハ遊撃豫備トシ或ハ總進撃ニ轉シタ
ル際ニ於テハ追撃ヲ行フ為メ利用セラレハキモノトス開濶
セル側面ニ於テハ騎兵ノ任務ハ豫備隊ノ到着迄迂回ニ末ル敵

縦隊ヲ発見抑留スルノ目的ヲ以テ側面ヲ掩護シ搜索スルモノ
ト入而シテ騎兵ハ其任務ノ遂行上必要ナル攻撃ヲ避クルヲ要
セ又又騎兵ニハ装甲自動車隊ヲ配屬セシムルヲ有利トス
全兵力或ハ側面警戒ノ部隊ヲ以テ総進撃ニ移ル場合ニアリテ
ハ騎兵ハ最モ勇敢ニ敵ノ側面及ヒ背面ニ於テ行動スヘシ

工兵及ヒ技術部隊

第六百八十四 工兵隊ノ作業ハ防禦ノ準備期間ニ於テ行ハル
ルモノニシテ陣地ノ構築交通路ノ改修連絡ノ設備破壊作業探
照燈ノ設置及其他ノ専門的作業ニ於テ模範ヲ示スモノトス
第六百八十五 戦闘間工兵ハ其専門的技術ヲ以テ他兵種ニ協
カスルト共ニ自己ノ作業ヲ継続スルモノトス故ニ工兵ノ配置
ハ熟慮シテ之ヲ定メ又自己ノ任務ニ関スル命令ハ其配屬セラ
レタル部隊ノ指揮官ヨリ之レヲ受領スヘシ

第六百八十六

装甲自動車ノ任務左ノ如シ

(一) 敵兵攻撃歩兵近接ノ結果攻撃直前ニ於テ中止セラルヘキ我
砲火ニ代リ或ハ近距離射撃特ニ側面(間接)射撃ヲ以テ敵ヲ
撃破ス

(二) 逆襲ニ協力ス

(三) 我陣地ニ突進スル敵ノ部隊ヲ撃破ス

(四) 我軍隊ノ進撃轉回ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ前進ニ來ル
モノ若シクハ独立セル敵部隊ヲ有效ニ射撃ス

(五) 敵ノ包圍迂回ニ抵抗シ我軍ニ協力ス

(六) 成效セル場合敵ノ退却部隊ヲ追撃ニ不成功ノ場合我退却部
隊ヲ掩護ス

盲障設備列車ハ鐵道沿線ノ地區ニ於ケル攻撃擊退ニ協力シ作
戦ノ關係上其隷屬セル指揮官ノ命令ヲ受クルモノトス

第六百八十七 航空部隊ハ步兵及ヒ砲兵ニ協力ス其任務在リ

如シ

- (一) 遠近ノ搜索ヲ実施ス
 - (二) 敵ノ搜索ヲ妨碍ス
 - (三) 砲兵ノ射撃ヲ規正ス
 - (四) 前線及ヒ指揮官間ノ連絡ヲ保持ス
 - (五) 敵ノ豫備隊ニ対シ爆彈ヲ投下シ且ツ機関銃ヲ以テ敵ノ軍隊及ヒ放列ヲ射撃ス
- 及ヒ放列ヲ射撃ス
 気球ハ近距ノ搜索ヲ爲シ砲兵ノ射撃照準ヲ規正スルニ任ス

防禦ノ特徴

第六百八十八 防禦ノ目的ハ進撃ニ軍ニ敵ニ損害ヲ与ヘテモヲ混乱セシメ我軍ニ有利ナル形勢ヲ作りテ遂ニ進撃ニ轉スル準備行動ニアル時ハ其目的ヲ達成セハ防禦軍ハ高級指揮官

ノ命令ニ依リ適時進撃ニ轉スヘシ而シテ該命令ニ於テハ地形及ヒ敵情ニ應ジ戦闘地區砲兵騎兵及ヒ技術部隊ノ新任務並ニ総豫備配置ノ方向等ヲ指示セラルルモノトス此際砲兵ハ過早ノ射撃開始ヲ避クルヲ要ス

第六百八十九 一時敵ヲ阻止スル目的ヲ以テスル防禦軍ハ其退却ヲ困難ナラシムルカ如キ程度ニ戦闘ヲ導クコトヲク隨時退却ニ要スル時間ノ餘裕ヲ得次ノ陣地ニ退却スルノ準備アルヲ要ス退却ハ砲兵及ヒ豫備力ヲ始ムヘシ

戦闘退却

第六百九十 戦闘ヨリ離脱セント欲セハ常ニ夜暗ニ到ルト共ニ退却スルヲ要ス然レトモ紛糾セル形勢ニ於テ特ニ我ニ不利ナル場合ニ在リテハ晝間ト雖モ之ヲ行ハサルヘカラス

第六百九十一 晝間ノ退却ハ戦術上頗ル困難ナリ而シテ砲兵

掩護下ニ於テ之ヲ実施スルヲ要ス

敵ノ追撃ヲ阻止シ且ツ退却ヲ掩護スヘキ砲兵ハ其若干部隊ヲ
最後ノ瞬間迄陣地ニ残置スルノ餘義ナキニ到リ其結果遂ニ火
砲ヲ失フニ到ルコトアルモ最後迄歩兵討スル自己ノ責任遂行
上毫モ之ヲ恐ルルニ足ラサルナリ

第六百九十二 夜間ノ退却ハ所定ノ時間ニ於テ全時ニ行フモ
ノニシテ各中隊ハ大隊ノ集合地ニ又大隊ハ聯隊ノ集合地ニ集
合ス聯隊ハ通常行軍縱隊ニ編入セラルシ或ハ指示ニ隨ヒ独立シ
テ行進スヘシ

第六百九十三 砲兵ハ歩兵ニ先立チテ陣地ヲ撤シ其配属セル
歩兵部隊ノ接近ヲ待ツヘシ輜重及ヒ後方ノ諸機關ハ隨時後方
ニ出發スヘキモノトス

第六百九十四 退却ヲ陰蔽スル爲メ陣地ニハ搜兵ヲ留メ以テ

火ヲ焚キ火箭ヲ放チテ地表ヲ照明スル等夜間陣地ニ於ケル生
活ノ常態ノ光影ヲ保持セシムヘシ

九 夜間ニ於ケル戦闘行動ノ特徴

第六百九十五 夜間ニ於ケル行動ハ不意ニ敵ヲ襲撃シ又優勢
ナル敵ニ接近スルニ便利ニシテ我兵カラ判断セントスル敵ノ
能力ヲ奪フモノナリ

第六百九十六 夜間ニ於テハ軍隊ハ著シク神至過敏トナリ戦
闘ノ判断又ハ指導困難ニシテ機動スルコト不可能ニ陥リ又砲

兵ノ協力ハ著シク限定セラルモノトス凡ソ暗黒中ニ於テハ神
聖興奮ニ易キノミナラス其發生セル事故ハ特種ノ意義ヲ有ス

ルヲ以テ夜戦ノ計画ハ單純ニシテ綿密ナル準備ヲ所要トス

第六百九十七 夜襲ノ計画ハ豫メ好ク敵ノ配置ヲ認識シ晝間
ノミナラス夜間ト雖モ行動セントスル地形ヲ研究シ又搜索隊

到達ニ能ハサル地域ハ地固或ハ居民ノ口述ニ依リ之ヲ研
以テ進撃ノ途上一ノ障碍物ニモ遭遇スルコトナク不意ニ敵
ヲ襲撃スルヲ要ス

第六百九十八 凡リ夜戦ノ困難ナルコトハ闇黒ニ於ケル襲撃
ハ少数ノ兵力ヲ以テ行フテ便宜トスルニ鑑ミルモ明カナリ故
ニ兵力大ナルトキハ闇黒ヲ利用シテ敵ニ接近スルト共ニ捕獲
ニ於テ敵ヲ攻撃スルヲ可トス

第六百九十九 夜戦ニ於ケル主要ナル行動ハ歩兵ノ任スルニ
ナリ砲兵及ヒ騎兵ハ必要ノ度ニ應ジテ特ニ拂曉ニ到ルト共
開戦スル場合ニ於テ之ヲ配属セシム

第七百 敵ト遠隔セル場合ニ於テ攻撃發起点ニ向ヒ行進ス
軍隊ハ夜途接ノ為ニ規定セラレタル隊形ヲ以テスヘキモ
トス

第七百一 攻撃ノ為ニ發起点(線)ハ可成敵ニ近ク之ヲ
選定スヘシ然レトモ何レノ場合ニ於テモ掩蔽シテ展開シ且ツ
敵ノ危険ナキ程度ノ距離ナルヲ必要トス

第七百二 若シ夜襲ニシテ晝間戦開ニ亘ルトキハ其中間戦開
ノ終リニ於テ獲得セル線ヲ以テ次ノ夜戦ノ出發地点トナスヘ
シ

攻撃發起点ニ於テ軍隊ハ展開ノ為メ駐止スルヲ要ス

第七百三 歩兵ハ各中隊ノ距離間隔ヲ閉縮シ中隊ハ主トシテ
収縮隊形又ハ小隊一列ノ隊形ヲ以テスヘシ

第七百四 砲兵、騎兵、車輻及ヒ乘馬ハ歩兵ト共ニ展開線ニ続行
ス可カラズ騎兵ノ小部隊ハ敵ノ側面及ヒ背後ニ於テ行動スル
為メ分遣スルコトヲ得、シ

第七百五 展開セル諸部隊ハ作候若シクハ独立兵ヲ以テスル
 連絡線ニ依リ其正面及内部ヲ連繫シ又後方トノ連絡ノ為メ電
 話又ハ遊動郵便ヲ設置スヘシ
 展開セル部隊ノ正面ハ作候ヲ以テ警戒シ側面又ハ時トシテ後
 方ハ小哨及ヒ作候ヲ以テ警戒スヘシ
 作候ハ視覚及ヒ聴覚ノ鋭敏ナル者ヲ以テ編組スヘシ
 自己ヲ認識セシムル為メ白色帶又ハ旗或ハ暗語ヲ使用スルヲ
 有利トス
 第七百六 数個ノ地矣ニ討シ同時ニ攻撃スル場合ニ在リテハ
 攻撃ハ各独立シテ行ハルルモノトス此ノ場合ニ於ケル連繫ハ
 出動ノ時間又ハ突撃ノ時刻ヲ一定スルニテリトス
 第七百七 展開及ヒ其後ノ運動ハ靜肅ヲ保持シ信号ヲ用ヒス
 弭令ハ低声ニテ發スヘシ

正確ナル方向ノ保持ハ極メテ必要ナルヲ以テ地理ニ通スル嚮
 導者ヲ使用スルヲ最モ可トス後方ヲ照明スル秘密燈或ハ後方
 ニ於ケルニ個ノ點火ノ一方ヲ以テ或ハ又照明羅針盤ヲ以テ運
 動ヲ指導スルヲ得ヘシ
 第七百八 若シ軍隊ニシテ探照燈ノ光線ニ浴シタルトキハ速
 ニ地上ニ伏臥スヘシ
 第七百九 敵ノ探照燈ハ砲火ヲ以テ之ヲ破壊シ得ヘシ
 第七百十 前進一方リテハ絶ヘス其通過セル距離ヲ明カニシ
 テルヲ要ス若シ其調査不可能ナルトキハ步測スヘシ然ラサレ
 ハ敵ノ哨處ヨリスル射撃ヲ以テ敵陣地ヨリスルモノト誤認ス
 ル悞レテハナリ
 第七百十一 夜間ノ光影ハ概シテ砲兵射撃ニ不適當ニシテ唯
 特別ノ場合ニ於テ砲兵ヲ使用スルコトアリト虽モ之レ推テ攻

撃ヲ容易ナラシムヘキ一定セラレタル戦術上ノ任務ヲ解決スルニ止マルノミナリトス

第七百十二 前進間ハ歩兵ノ射撃ヲ禁止ス而シテ敵火ニ対スル應酬ハ其ノ運動ヲ迅速ナラシムルニアリトス

敵ノ分遣隊ニ衝突シタルトキハ静肅ニ之ヲ殲滅スルカ又ハ捕獲スヘシ

第七百十三 攻撃ハ主トシテ戦闘地區ノ部隊ニテ実施シ豫備ハ警戒ヲ加ヘテ奔走スヘシ

突撃ニハガラー、ト叫声ヲ發セテ可成喧噪セシテ之ヲ実施スヘシ

第七百十四 敵ヲ撃破シタル攻撃部隊ハ速カニ其隊形ヲ整ヘ且ツ遲滞ナク其占領セル地區ヲ堅固ニスヘシ

第七百十五 攻撃成效後ノ追撃ハ形勢ノ有利ナルトキニ限り

特ニ新銳ノ新隊ヲ以テ短距離ニ於テ実施スルヲ得ヘシ而シテ何レノ場合ニ於テモ若シ敵ノ逆襲ヲ受クル顧慮アル時ハ之レカ発見ノ為メ速カニ搜索隊ヲ敵ノ退却部隊ニ跟随シテ派遣スヘキモノトス

攻撃不成效ニ了リタルトキハ晝間戦闘ヲ継続スルカ或ハ翌日再ヒ夜襲ヲ行フ為メ可成敵ニ近ク其位置ヲ固守スヘシ

第七百十六 夜襲ヲ行フニ際シテハ其攻撃地區ヲ照明シ敵眼ヲ眩惑シ敵ノ探照燈ニ對抗シ又ハ信号ヲ為ス為メ探照燈ヲ便用スルヲ有利トス

第七百十七 光明ナル夜間若シクハ敵ニ依リ著シク地表ヲ照

明セラルル場合ニ於テハ晝間戦闘ニ等シキ夜戦トナルヘシ斯ノ

ニキ場合ニ際シテハ照明ノ中断ヲ利用シテ迅速ニ前方ニ躍進スルヲ要ス

第七百十八 防禦ニ於テ若シ敵、夜襲ヲ豫期スルトキハ隨時
之ヲ擊退スル為詳密ナル計畫ヲ策立スルヲ緊要トス而シテ其
計畫ハ搜索ニ依リ蒐集シ得タル敵情及ヒ地形ノ報告ヲ基礎ト
スヘシ

晝間ノ準備ハ夜間射撃ニ資スル為メ正面前ニアル地物ニ到ル
距離ヲ測定シ砲兵ハ射撃障壁ヲ準備シ接近路ヲ掃射スル為メ
機関銃及ヒ小銃ノ配置ヲ定メ地表ヲ照明スル為メ人工設備ヲ
十ニ夜暗ニ於ケル豫備隊ノ接近路ヲ正確ニ認識シ或ハ簡單ト
人工障礙物ヲ設クル等晝間ニ於テ出来得ル大ケノ諸備ヲ為
スヲ要ス

又若シ状況之ヲ許セハ攻撃ニ退ノ練習ヲナスコト有益ナリ

第七百十九 夜暗ト共ニ警戒監視ハ一層之ヲ嚴ニシ屢々斥候
潜伏斥候等ヲ派遣シ又時々刻々地表ヲ照明スヘシ

第七百二十 隨時敵ノ接近ヲ発見スル為メ探照燈ヲ使用シ自
衝爆鳴警急信号等ヲ適用スル時ハ其效果大ナリ又番犬ハ現
實ノ效果ヲ顯ハシ得ルモノトス

第七百二十一 敵襲ヲ豫期スルトキハ当直部隊ヲ以テ戦線ヲ
占領シ最近ノ豫備ハ之レニ接近セシムヘシ翼側ニ對シテハ敵
ノ包圍ヲ警戒スル為メ豫備ヲ梯隊ニ配置スルヲ有利トス
翼側ニ對シテ配置セラレサル騎兵ハ主トシテ後方ニ位置セシム
ヘシ

軍隊ニ附隨セル輜重ハ隨時後方ニ退キ繋駕シタル兵車輜重ヲ敵
ニ背面シテ後方ノ道路ニ之レヲ布置スヘシ
敵襲アルヲ発見スルヤ道路ニ間断ナク連続シテ射撃線ヲ占
領スヘシ

又地表ノ照明ハ大ニ其度ヲ高メ砲兵ハ障壁射撃ヲ開始シ最

近ノ豫備ハ戦闘準備ヲ整フヘシ
 第七百二十二 小銃及ニ機関銃ハ攻撃部隊直接其正面前ニ曝
 露セルトキニ至リ始メテ其銃火ヲ開クヘシ
 突撃ハ射撃塹壕ノ後方ニ於テ之ヲ邀フルヲ使トス
 敵ノ為メ撃退セラレタル部隊ハ可成速カニ隊伍ヲ整頓シ逆襲
 ヲ準備シツキ其位置ヲ固守スヘシ
 敵ヲ突破シタルトキハ敵ニ整頓停止ノ餘祐ヲ與ヘスシテ速カ
 ニ之ヲ撃退スヘシ
 逆襲ハ翼面ニ於テ之ヲ実施スルヲ有利トス襲撃ヲ撃退セルト
 トハ警戒ヲ再興シ且ツ攻撃再挙ノ機會ニ處スル為メ退却ス
 ル敵ニ接觸シテ搜索隊ヲ派遣スヘシ
 地物戦
 通則

第七百二十三 地物戦ハ通常支撐点トシテ占領セル独立地
 物ノ攻撃若シクハ防禦ニヨリ發生スルモノトス
 斯ノ如キ地物ハ高地森林村落及独立家屋等是レナリ
 第七百二十四 第一線ニ於テ占領スル支撐点ハ軍隊ノ主動的
 行動ヲ安全ニシテ廣キ正面ニ於テ敵ヲ阻止シ得ル能力ヲ與フ
 ルモノトス
 第七百二十五 陣地ノ内部ニ散在スル地物ハ陣地ノ内部ニ戦
 闘ノ移リタル場合ニ於テ支撐点タルノ價值ヲ有スルモノニシ
 テ頑強ナル防禦ニ資シ或ハ必要ノ場合ニ方リ軍隊ヲシテ戦闘
 ヨリ離脱スルヲ容易ナラシムルモノトス
 第七百二十六 地物戦ニ際シテハ戦闘ノ為メニ規定セラレク
 ル原則ヲ適用スヘシト雖モ実施ノ方法ハ地物ノ特性ニ應ジテ
 術上一適合サルヘカラス

第七百二十七 地物防禦ノ進捗ハ軍ニ守兵ノ數ノミナラス隊ノ性質指揮官ノ決心及ヒ其手段ニ大ナル關係ヲ有スルモノニシテ又地物ハ其性質上薄弱ナル軍隊ヲミテ強クシムルモノトス

第七百二十八 地物ハ唯夕近距離ニ於テ其價値ヲ發揮スルモ遠距離射撃ニ際シテハ大ナル價値ヲ有セサルモノトス

第七百二十九 地物ハ砲火ヲ誘致シ特ニ前線ニ在リテハ敵砲兵ノ海々防禦ヲ撃破セラルル懼アルヲ以テ小ナル地物ノ占領ニシテ避クハキモノトス

第七百三十 以上理由ニ依リ地物ノ内部ニ過度ニ多數ノ軍隊ヲ收容ス可カラス之レ大ナル軍隊ノ集結ハ却テ防禦力ヲ増大セサルノミナラス損害ヲ大ナラシムルモノナリ

又支障矣ノ戦闘ニ方リテハ其附近ノ地ヲ衝突ノ出發矣トシテ

擇矣外ニ於テ之ヲ決セラルコト屢々ナルヲ以テ地物ハ其附近ノ地ト共ニ之ヲ一戦闘地區ニ包含セシムルヲ有利トス

第七百三十一 地物ノ防禦力ハ野戦築城法ニ據リ著シク其防禦力ヲ増大スルモノトス

第七百三十二 地物ノ攻撃ハ綿密ナル偵察適當ナル砲兵ノ準備並充分ナル兵力ヲ以テ實施スルヲ通則トス

第七百三十三 地物戦ノ特徴ハ偶發的事故ノ影響ニ依リ其性質ヲ變化セシムルモノニシテ巧妙ナル豫備ノ使用ハ之ニ大ナル關係ヲ有スルモノトス

第七百三十四 地物戦ヲ進捗セシムル爲メ砲兵ノ協力ハ決戰的意義ヲ有スルヲ以テ地物ノ攻撃ニ際シテハ特ニ充分ナル砲兵ノ準備アルカ若シクハ形勢ノ有利ナルトキニ於テノミ之ヲ進捗セシメ得ルモノトス

騎兵ハ大部隊ヲ以テ行動スル場合稀レニ地物戦ニ参加スルコトアルモ小部隊ニアリテハ地物ノ附近ヲ掩護シ附近ノ戦闘ニ参加シテ成効ヲ収ムルコトヲ得ヘシ

工兵部隊ノ地物戦ニ對スル協力ハ廣ク適用セラル特ニ防禦戦ニ際シテ然リトス

多クノ場合技術的方法ニ據ル援助ハ概テ有利ニシテ空中搜

索ハ空中撮影ト共ニ其一位ニアルモノトス

住民地戦ノ特徴

第七百三十五 防禦ニ於テ住民地ノ状態及建築物ノ性質如何ヲ顧慮シ之ヲ防禦線内ニ包括スヘキヤ或ハ軍隊ノ配置ヲ陰蔽スル為メニ利用スヘキヤヲ決定スルヲ要ス
木造建築物接比セル村落ハ防禦ノ為メ之ヲ占領スルハ不利ナリ

第七百三十六 防禦線ハ住民地ノ稍前方ニ撰定シ敵砲兵ノ監視ニ對シ遮蔽セシムルヲ必要トス

若シ村落ニシテ猛烈ナル敵砲火ヲ蒙ムルコトヲ豫期シタル場合ニ於テハ建築物ノ前線ハ之ヲ假裝物トシテ存シ防禦線ヲ村落ノ内部ニ設クルヲ有利トス
防禦線トシテ村落ノ縁端ヲ撰定スルハ時間ノ餘裕ナキカ若クハ其縁端前方ニ在ル樹木獨立家屋又ハ褶曲セル地形ニ依リ遮蔽セラル、場合ニ於テ為スヘキモノトス

村落ノ縁端ヨリ防禦線ヲ進出セシムルハ損害ヲ輕減シ得ルノ利アルモ塹壕作業ヲ増大スルモノトス

第七百三十七 所定ノ時間内ニ防禦準備ヲ整フルニハ先ツ村落ノ内部及後方ニ於ケル交通ヲ安全ニスルヲ第一トシ次ニ遮蔽及ヒ假裝設備ニ着手スルヲ要ス充分ナル時間ヲ有スルトキハ人工障碍物ヲ設クヘシ
防禦線ヲ前方ニ進出セシメサルトキハ村落ノ前面ニ偽塹壕ヲ設クルヨ有利トス

第七百三十八 村落ノ占領ヲ堅固ナラシムル為其内部ニ於テ獨立支撐点(複廓)又ハ第一防禦線ヲ構築スルヲ要ス

第七百三十九 複廓ハ砲兵ノ破壊射撃ニ對シ最モ安全ナル堅

卒^の建築物又ハ建築物ノ集團ヲ選ビ之カ防禦ニハ特別ノ守
 備兵ヲ以テ任スヘシ複廓ハ村落ノ一部ヲ隔離シ諸方向ヲ防
 禦シ且ツ彈藥及ヒ糧食ヲ安全ナラシムヘシ而シテ其任務ハ
 村落ヲ來ヘル場合ニ於テ逆襲ヲ容易ナラシムニアリトス
 第七百四十一 第二防禦線ハ隨時防禦ニ任スルモノニシテ之ニ
 特別ノ守備兵及ヒ機關銃ヲ配置スヘシ
 第七百四十一 敵ノ包圍ニ對シ村落ヲ安全ナラシムル為メ村
 落ノ西側ニ進出セル側方陣地ヲ設クルヲ可トス
 良好ナル場合ニアリテハ第一線ニアル獨立家屋ハ能ク側防
 ノ任務ヲ遂行シ得ルコトナリ
 第七百四十二 守備兵ノ數一定セル場合ニ於テハ村落ノ狀態
 地形其大小建築物ノ性質軍隊ノ性能及ヒ戰鬥ノ任務(專守防
 禦ノ別)如何ニ注意スルヲ要ス
之ニ二時的防禦

守備兵ハ防禦射擊線ヲ占領シテ第二防禦線及ヒ複廓ヲ占領
 スル為メ部隊ヲ分遣ス殘餘ノ軍隊ハ之レヲ防禦豫地^地為スヘ
 シ

第七百四十三 砲兵ノ射擊間ハ村落守備兵ハ監視兵及ヒ當直
 部隊ヲ第一線ニ殘置シ其他ハ所有スル掩蔽物内ニ在ラシム
 ヘシ但シ時トシテ村落ヨリ守備隊ヲ出動セシムルコトヲ得
 第七百四十四 攻撃歩兵ヲ發見セル時ハ砲火ヲ以テ之レヲ邀
 撃シ近距離ニ在リテハ防禦射擊線ヨリ小銃及ヒ機關銃火ヲ
 以テ之レニ協カス

第七百四十五 村落ニ突入セル敵ハ内部ニアル豫備ノ攻撃ヲ
 以テ之レヲ擊退スヘシ此逆襲ハ猛烈且簡單ニシテ村落ノ内
 部ニ限ルヲ要ス諸方ニ出撃スルハ却テ陣地ヲ喪失スルニ到
 ルヘシ

第七百四十六 村落ニ於ケル獨立家屋ハ極力 村落ヲ維持ス
ル必要ナル場合ニ於テノミ之ヲ防禦スルモノニシテ此際守
備兵ハ退却スルヲ得サルモノト覺悟セサル可カラス

第七百四十七 村落ノ全部ヲ放棄スル場合ニ於テハ複廓ノ守
備兵ハ最後迄防禦ヲ繼續セサル可カラス

第七百四十八 敵若シ村落ヲ固守セントスル場合ニ方リテハ
爾後ニ於ケル部署ヲ妨害スル爲メ全力ヲ集中スヘシ此場合
ニ於テ充分ナル増援兵ノ到着スル以前ニ散撃ヲ行フハ無効
ニ屬スルヲ通常トス

第七百四十九 村落ノ攻撃ニ於テハ豫メ綿密ナル搜索ヲ行ヒ
特ニ空中撮影ヲナスト共ニ空中ノ搜索ヲ緊要トス空中搜索
ノ任務ハ防禦系統(見ヘ得ル防禦線及ヒ放列位置)ヲ詳カニシ
テ突撃實施時刻決定ニ必要ナル砲兵準備射撃ノ結果ヲ確ム

ルニテリ

正面攻撃ハ包圍ト合致セシムルヲ要ス

第七百五十 直接村落ヲ攻撃スルニ方リテハ先ツ村落ノ縁

端ニ突入シ爾後突入セル部隊ハ敵ヲ突破シテ反對側ノ縁端

ニ達スヘシ而テ此運動ハ街衢ニノミ據ルコトナク後方ノ庭

園又ハ家屋障壁ノ破口ヨリ侵入スルヲ要ス

第七百五十一 攻撃實施前歩兵ノ給養ヲ充分且ツ自由ナラシ

ムルヲ要ス之レ街衢戰ニ於テハ多大ノ運動ト体力ヲ要スレ

ハナリ

第七百五十二 敵手ニ残レル複廓或ハ獨立家屋ノ奪取ハ之ヲ

特別部隊ニ委任スヘシ又防禦ヲ減却スル爲メ附近ノ家屋ヨ

リスル射撃火災斷絶方法砲兵ノ小部隊又ハ近距離射撃砲等

ヲ適用スルヲ要ス

第七百五十三 側方ニ於ケル戰鬪ニ於テ攻撃軍若シ優勢ナラ

サルトキハ急遽村落内ニ侵入スルヲ不利トス

村落全部ヲ通過セル先頭部隊ハ反對側ノ縁端ニ達シテ之ヲ固守シ以テ追撃ニ誘致セラレタル部隊ノ縁端外ニ出ツルヲ許ス可カラス

第七百五十四 村落戰終局後ハ守備兵ヲ任定シ殘餘ノ軍隊ハ

之レヲ村外ニ導クヘシ

最初司令官ノ採ルヘキ處置ハ防禦機關ノ編組ヲ檢閲シ秩序的ニ村落ヲ搜索シ火災ヲ鎮定シ且村落内部ノ秩序ヲ整頓スルニアリトス

森林戰ノ特徴

第七百五十五 住民地戰ニ関シ規定セラレタル以上ノ事項(第七百三十五乃至第七百五十四)ハ其原則ニ於テ森林戰ニモ亦之

レヲ適用スルモノトス

第七百五十六 森林ハ一時的防禦ノ為メニハ村落ニ比シ遙カ

ニ良好ニシテ廣キ正面ヲ以テ退却スルコトヲ得又能ノ周圍ヲ展望シ得ヘシ特ニ疎林ニ於テ然リトス

頑強ナル防禦ヲ爲サントスル場合ニ於テハ他兵種ヲ以テ歩兵ヲ援助スルニ便ナル中等程度ノ森林ヲ適當トス

廣大ナル森林ハ時間ノ餘裕ヲ得ントスルカ或ハ退却ヲ掩護スル目的ヲ有スル防禦ニ於テ最モ便利ナリトス

第七百五十七 防禦線ヲ占領スルニ際シテハ平等ニ樹木ノ繁

茂セル場所ハ之レヲ避クルヲ要ス

森林ハ樹木稀薄ナル境界地ニ依リ大小ノ地區ニ分ル、モノニシテ隨テ各地區ハ其價値ヲ異ニス最モ多ク攻撃ヲ受ク

ヘキ突角部或ハ敵ノ接近ニ便利ナル場所ニ對向スル地區ハ

其防禦線ヲ短縮スハキモトス

第七百五十八 各地區間ハ突出セル隅角或ハ攻撃ヲ蒙ルル惧

最モ少ナキ地点ヲ以テ其境界トナスヲ要ス然レトモ如何ナ

ル場合ニ於テモ森林外ニ限界線ヲ進出セシム可カラス

第七百五十九 樹木、稀薄ナル林端若クハ疎林ニアリテハ射

撃線ヲ森林ノ内部ニ設クルヲ可トス又時トシテ射撃線ヲ森

林ノ前方ニ設クルヲ有利トスルコトアリ

第七百六十 森林内ノ防禦ハ大ナル田畝貫通セル小径道路

小流又ハ凹地等ヲ防禦線ニ利用スルニ依リテ軽減セラルヘ

ク又容易ニ樹木間ニ設備シ得ル防舎又ハ鉄條網ハ大ニ効果

ヲ齎ラスモトス

第七百六十一 大森林地ノ防禦ニ際シ軍隊ノ不足ナル場合ニ

於テハ林端ノ突出部ト其出口ヲ占領スルニ止ムヘシ占領セ

サル林端ノ中間地ハ占領地區ヨリスル射撃ヲ以テ側防スル

モトトス

第七百六十二 森林戦ニ於テ連絡ヲ保持シ方向ヲ保持シ且軍

隊ヲ統帥スルハ頗ル難事ナリ特ニ大森林ニ於テ然リトス

迪道田畝道路及ヒ小径ハ方向ノ判断ヲ容易ナラシム而シテ

密林ニ於テハ集結部隊ノ運動ニ唯一ナル可能性ヲ與フルモ

トス

第七百六十三 攻者森林内ニ突進シ来ルトキハ頑強ナル側面

攻撃ヲ以テ之ヲ撃退スルヲ緊要トス

時トシテ逆襲ニ際シテハ後方ニ防禦線ヨリ不意ニ射撃ヲ行

フコトヲ得

第七百六十四 森林ノ攻撃ニ方リテハ主トシテ林端ノ突出部

ニ對シ攻撃ヲ指向スルヲ必要トス

第七百六十五 攻撃ニ方リテハ森林内ニ對スル瓦斯彈射撃ニ依リ大ナル協カヲ與ヘ得ルモノトス

第七百六十六 森林内ニ突入シタル部隊ハ速ニ隊伍ノ整頓ヲ行ヒ又退却スル敵軍トノ接觸ヲ保持スル爲メ有力ナル斥候ヲ派遣スヘシ然ル時ハ比隣友軍ノ援助ヲ要スルカ或ハ再ヒ出現スル敵ヲ側面ニ於テ邀撃スヘキヤ又ハ退却スル敵部隊ヲ追撃スヘキヤ等其情况自カラ判明スルニ到ルヘシ

第七百六十七 爾後部隊ノ森林内ニ於ケル運動ハ過廣ノ正面ヲ保持スルコトナク近ク集結セル援隊線ヲ保持シ梯隊ヲ以テ行進スル豫備ニ依リ側面ヲ警戒スヘシ警戒セル森林内ニ下リテハ小隊一列ノ隊形ヲ以テ運動スルヲ便宜トス要スルニ敵ト遭遇スル場合ニ於テ射撃及ヒ突撃ノ機先ヲ制シ以テ不意ニ敵ヲ襲撃スルヲ緊要トス

第七百六十八 森林内ニ於テ正シク其方向ヲ保持スルハ難事ナリト雖モ亦頗ル緊要事ナリ之カ爲メ戰鬥部署ニ於ケル各部隊ハ斥候ノ連續線ニ依リ連絡ヲ取リ其一般ノ方向ハ道路小徑等ニ依リ之レヲ判定シ若シ判断スヘキ地物ナキトキハ羅針盤ニ依ルベシ

第七百六十九 自己ニ對抗スル敵ヲ有セサル部隊ハ友軍ノ運動ヲ妨碍スル敵ノ翼面ニ行動シテ友軍ヲ援助スヘシ

第七百七十 若シ森林ヲ攻撃スル部隊ノ勢力ニシテ敵ノ抵抗カト均等ナルトキハ爾後ノ攻撃ハ之レヲ中止シテ森林ノ側方ニ於テ行ハル、戰鬥ノ結果ヲ待ツヘシ

高地戰ノ特徴

第七百七十一 高地ハ陣地ノ主要部ヲ成形ス而テ高地ノ攻撃及ヒ防禦ニ関シテハ戰鬥ノ爲メ規定セラレタル原則ニ準據

スヘキモノトス

高地ハ主トシテ展望ニ有利ナリ

第七百七十二 第一線ニアル高地ノ防禦ハ其前方ノ地形斜面ノ傾斜斜面ニ在ル植物及ヒ高地ノ廣狹如何ニ依リ之レヲ決定ス若シ高地前面ノ地形平坦ニシテ曝露セルトキハ斜面火ヲ避ケル為メ射撃線ヲ山麓ニ設ケルヲ有利トシ斜面ノ前方ニ森林ヲ有スルトキハ林端ニ之ヲ設ケヘシ又時トシテ射撃線ハ甚シク頂上ニ接近セサル反對ノ斜面ニ設ケルヲ有利トスルコトアリ然レトモ斜面急峻ナルカ或ハ高地著シク大ナルトキハ其頂上ニ射撃線ヲ設ケルヲ要ス

階段射撃ヲ適用スヘキ機會頗ル多シトス

第七百七十三 斜面頗ル急峻ナル時ハ隣接防禦地區ヨリスル射撃ヲ以テ敵ノ接近路ヲ側防スルヲ有利トス

第七百七十四 僅カニ火起セル高地ハ之ヲ占領スルノ價值少シ

狹隘地戰ノ特徴

第七百七十五 狹隘地ハ橋梁堤防等ノ側方軍隊ノ運動ヲ許ササル如キ地形ニ在リテハ特種ノ意義ヲ有スルモノトス

第七百七十六 單一ナル狹隘地ハ防禦ニ際シ最モ有利ナリ之レニ反シ狹隘地一ツノ障壁ニ向ヒ集中スル場所ニアリテハ敵ヲシテ廣シ正面ヲ以テ該障壁ニ近迫スルヲ得セシムルヲ以テ不利ナリ

第七百七十七 狹隘地防禦ニ於テハ狹隘地ノ前方又ハ後方或ハ狹隘地ノ内部ニ陣地ヲ占領スルコトヲ得ヘシ而シテ狹隘地ノ後方ヲ占領スルハ受動的防禦ニ任スルモノニシテ之レニ反シ狹隘地ノ前方ニ陣地ヲ占ムルハ主動的任務ノ外狹隘

地通過ノ可能ヲ警戒セント欲スルニアリ又狹隘地ノ内部ヲ
占領スルハ長ク狹隘地ヲ防禦スル目的ヲ以テスルモノトス
第七百七十八 狹隘地ノ攻撃ニ於テ決戰的意義ヲ有スルモノ
ハ砲火ナリ狹隘地ヲ略取スル為メニハ砲火ヲ以テ内部ノ敵
ヲ驅逐スルカ或ハ其防禦ヲ壓倒スルニアリ若シ其目的ヲ達
成シ得サルトキハ迂回道路ノ搜索ヲ必要トス

十一 市街戰

第七百七十九 市街戰ニ於テ擾乱ヲ起セル住民トノ戰鬥ハ概ネ
野戰ニ於ケル住民地戰ニ類似スト雖モ之ト異ナル主要點左
如シ (一) 市街戰、市街ノ内部ニテ開始シ内部ニ於テ終局
スルモ野戰ニ於ケル住民地戰ハ其外部ニ空點ヲ置ク (二)
市街戰ハ大都市ニ於テ行ハルハ通常トスルモ野戰ニ於テ
ハ唯タ少數ノ居民ヲ有スル地點ニ於テ行ハル (三) 市街戰ハ

野戰ニ比シ永續的ナリ

第七百八十

市街戰ハ遮蔽セル隘路(市街戰)ノ攻撃及ヒ支
撐點(公共ノ建築物、停車場、寺院、舊要塞、城砦其他)ノ占領ヨリ
生スルモノトス

此兩者ノ場合ニ於テ重大ナル價值ヲ有スルモノハ即チ各種
ノ技術方法(各種火砲、機關銃、装甲自動車、自轉車、航空機、手榴彈
及ヒ其他)ヲ適用スルト共ニ之レト軍隊ノ行動トヲ適當ニ
合致セシムルニマリ

第七百八十一

技術的方法ト共ニ入カテ適用スルニ方リテハ
敵ノ性質即チ乱民ハ不完備不規律ニシテ感傷的ナルニ加ヘ
輕舉育動的ナルコト等ヲ顧慮スルヲ要ス

第七百八十二

敵ノ性質前項ノ如クナルヲ以テ敵ニ防禦機關
ヲ設備スル時間、餘裕ヲ與ヘサル如ク最モ迅速果斷ニ行動

スルヲ緊要トス

第七百八十三 暴民ノ勸誘ニ對シ軍隊ヲ警戒スル為メ有ユル

方法手段ヲ盡サ、ルヘカラス即チ軍隊ヲ兵營内ニ隔離スル

コト民衆ヲシテ百歩乃至二百歩以内軍隊ニ接近セシメス且

軍隊ニ對シ演説又ハ對談スルヲ禁止スルコト等是ナリトス

第七百八十四 軍隊ヲ民衆ト混在セシムルハ甚メ不良ナル結

果ヲ来シ遂ニ軍隊ヲ民衆ニ投セシムルニ至ルコトアリ

第七百八十五 軍隊ヲ暴民間殊ニ個人ノ家屋ニ分散シテ配宿

セシムルハ之レヲ許ス可カラス

第七百八十六 擾乱ノ鎮壓ニ方リ最モ注意ヲ要スルハ軍隊ノ

指揮ヲ一任スル軍隊指揮官ヲ設クルニアリ而テ該指揮官ハ

果斷ニシテ堅確ナル意志ヲ有シ又該指揮官ノ處置ニ對シテ

ハ何人モ之ニ干渉シ或ハ之ヲ批評スヘカラサルノ全權ヲ附

與セサル可カラス

第七百八十七 擾乱ヲ鎮壓スヘキ部隊ノ編組ニ際シ注意ヲ要

スルハ兵員ノ民種ニシテ他ノ地方民種ヲ以テスルヲ最モ可

トシ外國人ヲ以テスルモ尚且ツ可ナリトス

第七百八十八 獨立部隊或ハ縱隊ノ編成ニ際シテハ機關銃ト

共ニ歩兵砲兵装甲自働車工兵技術部隊及ヒ普通ノ通信部隊

等ヲ編入スヘシ

歩兵一大隊ニ對スル計算ハ機關銃 八挺砲 四門装甲自働車

一、二台獨立工兵 一隊及ヒ機械器具材料 匙、鋏、斧、石鎚、梯子、

綿火藥又ハ其他ノ爆藥ノ一隊ナリトス

歩兵ハ手榴彈ヲ携帶スヘシ

調査ヲ便ナラシムル為メ軍隊ニ市街地圖ヲ交附シ且ツ市街

ノ民警隊ヲ附屬セシム

第七百八十九 蜂起ノ徵候現ハレ若シクハ擾乱突發セル場合

=在リテハ市街ニ對シ戰時狀態ヲ布告シ且ツ本令ニ於テ軍隊ノ行動ニ關シ規定セラレタル第七百八十六ニ據リ市街ニ

配置セラルル軍隊全部ノ指揮官ヲ任命スヘシ
第七百九十 市街ハ之ヲ若干ノ地區ニ區分シ各地區ノ防

禦ハ地區ノ大小及價值其他情況ニ應シ編組セラレタル部隊之レニ任スルモトス

擾乱ヲ鎮壓スル場合攻撃動作ヲ採ルヘキ軍隊及ヒ其總豫備ハ直屬高級指揮官ノ命令ニ依リ之レヲ任定ス

第七百九十一 市街ヲ區分セル時其地區ノ警戒ニ任スル軍隊ノ責務ハ最重要建造物及ヒ設営物(機關銃又時トシテ砲ヲ

伴ヘル歩兵ニ依リ占領セラル)ヲ警戒シ有カナル斥候裝甲自働車ノ派遣ニ依リテ地區ノ秩序ヲ保持シ勸誘員ノ宣傳ヲ

禁止シ且ツ攻撃動作 為メ任定セラレタル部隊ニ協力スル等ニアリトス

第七百九十二 各地區ノ指揮官高級指揮官及ヒ各地區間ニハ現存セル都市又ハ野戰ノ電信電話或ハ自働自轉車傳騎及ヒ

其他ノ方法等ニ依リ確實ナル連絡ヲ保持スヘシ
第七百九十三 連絡線遮断セラル場合ニ處スル為メ同時ニ

各種ノ若干連絡線ヲ設置スルノ必要アルコトニ注意スルヲ要ス電話(電信)局ノ特別衛兵ヲ以テ警戒シ又線路ハ斥候

ニ依リ之レヲ警戒スヘシ
第七百九十四 市街戰ハ突撃ヲ以テ城壁及ヒ其接近家屋略取

スルノ必要アルニ際シ起ルモトス
第七百九十五 防禦軍ノ城壁ニ據ルコトヲ其附近ニ於ケル

隅角ノ家屋ニ據リテ攻撃ニ對抗スルコト屢々アリ

第七百九十六 攻撃ハ一家屋通過ノ迂廻ニ依リ又ハ家屋ニ接シタル庭園ヲ経テ行ハル、モノ及ニ街衢ニ依リテ行ハル、モ、トノ二種アリ

其第一ノ方法ハ最モ確實ニシテ損害ヲ蒙ムルコト少ナキモ進捗遅々タルニ反シ第二ノ方法ハ最モ迅速ナリトス

第七百九十七 以上ノ二方法ハ共ニ技術的方法特ニ砲兵ヲ充テ利用スルヲ緊要トス即チ砲火装甲自働車ノ動作航空機上ヨリノ爆彈投下機関銃火及ヒ其他ノ適用セル技術的方法ヲシテ軍ニ準備戦タルニ止マラスシテ之ニ決戦的意義ヲ有セシムヲ必要トス

第七百九十八 第一方法タル迂回攻撃ヲ行フニハ軍隊ヲ街衢ノ両側ニ在ル家屋ニ侵入セシムルニ在リ之カ為メ任定セラレタル幹部員ハ二三名ノ赤兵ヲ伴ヒ屋内ノ階段ヲ経テ階

上ニ出テ該處ヨリ反對側ニアル家屋ノ階下ニ於ケル形勢ヲ觀望シ然ル後隣接家屋ノ障壁ヲ破リテ隣家ニ侵入ス障壁ノ破壊ハ工兵指導ノ下ニ隊員之レヲ行フハシ其際後庭ヨリ妨碍ヲ受クルコトナク作業ニ從事シ得ヘキヲ以テ後方ノ障壁ヲ破壊スルヲ有利トス但シ前面ノ室内ニハ街衢ヲ監視シ且ツ現出セル目標ヲ射撃スル為メ歩哨ヲ窓側ニ配置スヘシ斯ノ如クシテ一家屋ヨリ他ノ家屋ニ順次運動スヘキモトス

右ノ場合ニ於テ家屋ニ接シ後方ニ庭園アルトキハ其柵壁ヲ破壊シ攻撃用ノ通路ニ供スヘシ

軍隊柵壁上ニ卓越セル家屋ニ到達セルトキハ此處ニ展開シ突撃ヲ行フヘシ家屋内ノ運動ハ歩兵ノ行動ニ合致セル砲火ノ準備ヲ伴フ要ス

第七百九十九 家屋ヲ經由シテ運動スル場合ニ於テハ敵ノ占

領セル屋上ヲ射撃スル爲メ吾機關銃ヲ以テ屋上ヲ占領スル
ヲ有利トス

第八百 攻撃ノ第二方法タル街衢ニ於ケル進撃ハ屋内ノ通
過ト合時或ハ單獨ニ行ハルモトス

第八百一 曝露攻撃ハ多大ノ損害ヲ伴フモ擾亂鎮壓ノ期ヲ早
ムルモノトス

進撃ハ縱隊ヲ以テ之レヲ行フ縱隊ノ運動ハ街衢ノ廣サニ應
ジ一臺又ハ二臺ノ装甲自働車ヲ前驅セシムヘシ

第八百二 縱隊ノ前方ニハ街衢ノ兩側家屋ニ密接シテ射撃ヲ
射手ハ窓口屋上又ハ一般出現スル目標ニ向ヒ射撃ス射手ノ
後方約百歩ニ在リテ小哨行進シ縱隊ハ其後方同一距離ヲ保
テ街衢兩側ノ門口入口及ヒ側方街衢ニ在ル家屋ノ隅角等ニ
於テ適當ナル射撃警戒ヲ受ケツ、行進ス射手ハ小哨及ヒ縱

隊ノ兩側ニアル人道ヲ行進シ互ニ反對側面ノ家屋ヲ監視ス
若シ縱隊先驅ノ小哨ニシテ事故ノ爲メ駐止スル場合ニ際シ
テハ速ニ他ノ小哨之レニ代リテ行進ス而テ縱隊ハ一發ノ射
撃ト雖モ之ヲ爲サ、ル如ク嚴戒スヘシ之レニ反シ射手ハ一
名ノ暴徒ニ對シテモ之ヲ射撃スルノ準備アルヲ要ス而シテ
射手ハ選抜兵ヲ以テ之レニ任スルモノトス

第八百三 街衢ノ進撃ニ際シ家屋ヲ經由シテ運動シアル我歩
兵ト遭遇セルトキハ連繫ニ注意シ同士打ヲ爲サ、ル如ク警
戒スヘシ之レカ爲メ家屋ノ占領ヲ表示スルニ方リ旗ヲ掲揚
スルノ等ノ記号ヲ設クルヲ要ス

第八百四 装甲自働車ハ柵壁ノ直下近距離ニ前進シテ機關銃
ヲ以テ其兩側ヲ射撃シ然ル後步兵ノ突撃ヲ行フヘシ

第八百五 歩兵暴民ノ占領セル街衢ヲ進撃スルニ方リテハ其

側面ヲ又戰鬪、場合ニ於テハ其側方ノ街衢ヲモ警戒スル為
メ若干ノ掩護部隊ヲ出スモトス

第八百六 縱隊ハ馬匹ヲ携行ス可カラス

第八百七 堅牢ナル建築物ニ對スル突撃ハ十分ナル砲撃ノ結
果ヲ待ツテ之ヲ實施スヘシ多クノ場合暴徒ヲシテ降服セシ
ムルヲ以テ足レリトス

第八百八 戰鬪數日ニ互ル場合ニアリテハ夜間ハ其占領セル
陣地ヲ閉鎖シ翌朝ニ到リ戰鬪ヲ再開スヘシ

第八百九 夜襲ノ好機ヲ敵ニ與フヘカラス

第八百十 戰鬪ハ擾亂ノ全然鎮定スルニ到ル迄之レヲ徹底セ
シムルヲ要ス

第八百十一 戰鬪間ニ於テハ戰鬪ニ從事スル部隊ノ給養ヲ豊
富ナラシメ衛生機關ヲ完備シ戰鬪豫備品及ヒ所要材料ノ供

給ヲ遲滯セシメサル如ク注意スルヲ緊要トス

十二 山地戰ノ特徴

廻運動ヲナスヲ特ニ有利トス

山地ニアリテハ展望不充分ナル為綿密ナル搜索及監視ヲ必
要トシ又屢々機關銃ヲ伴ヒ時トシテ砲兵ノ小部隊ヲ伴ヘル

歩兵ヲ以テ側面ヲ警戒スルヲ緊要トス

軍隊ノ統御及連絡頗ル困難ナルヲ以テ各部隊長ノ獨斷專行
ハ山地戰成效ノ為特ニ貴重ナルモノトス又連絡法中特ニ適

用セラル、ハ發光信号法ナリ

敵ノ搜索ニ就テハ航空機上ノ視察最モ重要ナル價值ヲ有ス

第八百十三 山地戰ニ於テハ大砲又ハ機關銃ヲ以テスル接近
地及ヒ斜面ノ射擊並觀側所配置ノ為ニ最高ノ高地ヲ占領ス

一七八

ルヲ緊要トス

山地ハ交通ノ困難ナルヲ以テ豫備隊ハ戦闘ニ從事スル軍隊ノ近傍ニ配置スルヲ要ス

第八百十四 獨立高地（支撐点）ノ攻撃ニ際シテハ之カ略取地敵ノ隣接支撐点ヨリスル射撃ノ制壓ニ関シ大ナル注意ヲ要ス巧妙ナル觀測所ノ選定及砲兵ノ配置ハ突撃ノ直前ニ至ル迄有利ナル協力ヲ爲シ得ヘシ

側面射撃ハ縦ヒ射撃ノ數僅少ナリト雖モ大ナル利益ヲ収ムルコトヲ得占領セル高地ハ速ニ機關銃及ヒ砲兵ヲ以テ防備スルヲ要ス

第八百十五 防禦ニアリテハ通常死角多キヲ以テ其全正面ニ於ケル接近路ハ砲兵及ヒ機關銃ノ側防火若クハ間接射撃ノ下ニ之レヲ置クヲ要ス之レカ為メ砲兵及ヒ機關銃ハ分割シ

テ各所ニ配置スルヲ可トス

第八百十六 高地及ヒ斜面ニ掩蔽物或ハ偽塹壕ヲ構築シ又堅固ニ占領セントスル高地ニ於テハ軍隊配置ノ側面警戒ヲ爲スコト特ニ緊要ナリトス

第八百十七 敵ノ攻撃ヲ受ケタルトキハ防者ハ小銃火ヲ以テ之ニ對シ登攀ノ為メ疲勞セル攻者ヲ射撃ノ近距離ニ達シタルトキハ手榴彈ヲ以テ激撃シ次ニ突撃ヲ行ヒ射撃ヲ以テ追撃スヘシ接近路ヲ側防スル砲兵ハ敵攻撃部隊ノ側面ヲ砲撃シ他ノ砲兵ハ主トシ攻撃部隊ヲ掩護スル敵砲兵及ヒ若シ成シ得レハ敵ノ豫備隊ヲ砲撃スヘシ

十三 戦闘命令

第八百十八 戦闘命令ニ包含スヘキ事項左ノ如シ（附録第十

- (一) 敵情
- (二) 比隣友軍、狀況
- (三) 行動、一般目的、前進、方向又ハ地域防禦ニ際シ擴張スヘキ陣地正面、指示
- (四) 戰鬥地區ニ依ル軍隊ノ部署各地區ニ於ケル軍隊ノ任務戰鬥地區、軍隊區分ニ入ラサル砲兵ノ任務及要スレハ獨立掩護隊
- (五) 總豫備、編組、運動スヘキ方向又ハ配置、地域及ヒ其指揮官
- (六) 戰鬥地區、軍隊區分ニ入ラサル騎兵ノ區處及其行動ノ目的
- (七) 搜索、編組及任務
- (八) 側面、警戒及監視法

- (九) 連絡、方法
 - (十) 戰鬥地域ノ境界
 - (十一) 砲廠ノ配置（先頭及ヒ其他）
 - (十二) 補給所ノ位置
 - (十三) 第二級輜重ノ位置ト其掩護隊輜重、總指揮官ト其掩護隊
 - (十四) 各種技術作業ニ関スル部署
 - (十五) 報告ノ送附先
 - (十六) 部隊指揮官ノ後任者
- 以上、外各指揮官ハ其附與セラレタル任務遂行ニ要スル事項ヲ自己ノ命令ニ於テ詳述スヘキモノトス

第六篇「バルケガン」の行動

第八百十九 同ルケガンに行動ハ左ノ如キ場合ニ於テ適用セ

ラレ得ルモノトス

(イ) 戦地廣大ニシテ特ニ戦地ノ人口稀薄且開拓不充ナル場
合

(ロ) 假令戦地廣大ナラザルモ断絶地ニシテ大集團ノ運動ヲ許
サ、ル場合

(ハ) 敵ノ後方ニ在ル住民我ニ同情ヲ有スル場合

第八百二十 同ルケガンノ行動ハ成シ得ル限り多ク敵ニ物質

上ノ損害ヲ與ヘ敵ノ後方ニ於テ紛乱擾騷ヲ起サシメ正面ハ

ノ輸送ヲ断絶スル為メ交通路ヲ破壊シ可成多数ノ敵兵力ヲ

後方ノ警備ニ使用セシムル等ヲ以テ其目的トス

第八百二十一 同ルケガンノ行動ハ左ノ三方法ニ依リ組織セ

ラル

(イ) 騎砲兵ヲ伴フ騎兵ノ大支隊ヲ自軍ヨリ分遣ス該部隊ハ可

成深ク敵ノ背面ニ潜入シテ苟モ敵ノ為メ價値ヲ有スルモ

ノハ恣テ之レヲ破壊若クハ滅却ス之カ為メ小部隊ヲ各方

面ニ派遣ス而シテ任務遂行後ハ戦闘ニ参加スル為メ必要

ナル他ノ道路ヲ經テ自軍ニ帰還スルモノトス

(ロ) 一小隊乃至若干中隊ノ騎兵或ハ歩兵ノ特種支隊ヲ派遣ス

全部隊ハ可成深ク敵地ニ潜入シ處々ニ轉々シツ、多少永

續的ニ秘密ノ巢ヲ構ヘ以テ形勢ニ應シ全部隊或ハ小部隊

ニ分レテ行動ス而シテ引續キ敵地ニ潜在スルコト不可能

ニ陥ルカ若クハ自己ノ任務ヲ遂行シタルトキハ自軍ニ帰

還スルモノトス

(ハ) 敵ノ後方ニ於テ特ニ派遣セラレタル者若クハ豫メ同地方

= 居住セル我機關指導ノ下ニ住民ヲ以テ特種ノ團體ヲ組
織ス此團體ハ被服及外觀ヲ變更シ且ツ自己ノ踪跡ヲ湮晦
シ各所ニ轉々シテ秘密ニ行動スルモノトス

第八百二十二 同ルチガンノ支隊又ハ團體ハ体力健康堅忍敏
捷ナルモノニシテ献身的ノ希望者ヲ選抜シテ之ヲ編成ス

第八百二十三 同ルチガン隊ノ指揮官選定ニ関シテハ特ニ注
意ヲ拂ハサル可カラズ而テ其指揮官ノ能力才能及ヒ軍事上
ノ智識及特ニ同ルチガン的戰術能力等ハ其行動ノ進捗ニ大
ナル影響ヲ有スルモノトス

第八百二十四 同ルチガン行動ノ目標トナシ得ヘキ物次ノ如
シ(1) 鐵道線路上ニ於ケル人工設備物電信及ヒ電話線(2) 兵站
地(3) 各種ノ倉庫(4) 各軍ノ後方ニ於ケル輜重輸送砲廠(5) 敵ノ
郵便(6) 敵ノ獨立部隊(7) 敵ノ薄弱ニ占領セル住民地

第八百二十五 單ニ指揮官ノミナラス總テノ支隊又ハ獨立分
遣隊ノ全員ハ以上列舉セル目標ヲ襲撃スルニ際シ行動スヘ
キ方法ニ習熟スルヲ必要トス

同ルチガンハ爆破作業ヲ知ラサル可カラズ

第八百二十六 所定ノ武装及ヒ爆藥ノ外同ルチガンハ拳銃手
榴彈及ヒ金線切断用ノ鋏ヲ所有スルヲ有利トス

第八百二十七 同ルチガンハ糧食俘虜及ヒ戰利品ヲ携行スヘ
カラズ必需品ハ總テ之レヲ居民ニ擄ルモノトス

第八百二十八 同ルチガンノ行動ヲ進捗セシムルニハ主トシ
テ不意ノ襲撃ヲ行フニアリ故ニ秘密ヲ保テ居民ヲ欺瞞スル
爲メ有ユル手段ヲ採ラサル可カラズ

第八百二十九 企圖實行ノ爲メ同ルチガンヲ派遣スルニ方リ
テハ之ヲ他人ニ知ラシムヘカラス其指揮官ハ只出動ノ瞬間

ニ於テ始メテ其行動 目的及計画ヲ部下ニ指示スルノミト
ス若シ間諜不在ニシテ確信アラサルトキハ支隊ヲ小部隊
ニ細分シテ任務ノ遂行上特ニ定メラレタル地味ニ集合セシ
ムヘク各種ノ方面ニ向ケ派遣スルヲ可トス

第八百三十一 襲撃ハ夜間竊ニ之レヲ行フト共ニ夜間ニ退却
スルヲ最モ可トス然レトモ之レヲ行フニハ地形及ヒ敵ノ配
置ニ暗熟スルカ又ハ良好ニシテ確實ナル案内者ヲ必要トス
之レニ反スル場合ニアリテハ拂曉前ニ襲撃スルヲ可トス
若シ兵站地域ニ於テ襲撃ヲ試ミニトスルトキハ兵站部ニ於
テハ早朝ヨリ運動開始セラレ、ヲ以テ夜半之レヲ實施スル
ヲ可トス

哨所又ハ斥候ハ之レヲ迂廻スルカ又ハ射撃スルコトナク竊
ニ之レヲ捕虜トスヘシ

第八百三十二 襲撃ノ計画ハ綿密ナルヲ要ス

第八百三十三 敵ノ外衛兵及哨所ヲ驅逐シテ内部ヲ占領セン
トシ又ハ敵ノ河校ヲ捕獲シ且警急信ヲ發信ヲ警戒センカ
為トニハ特ニ選拔セル者ヲ以テ之ニ任スヘシ若シ村落外ニ

配置セラレタル敵ノ火炮及ヒ輜重位置明瞭ナルトキハ之レ
カ占領ノ為メ専門隊ヲ分遣スヘシ又敵ノ混乱ヲ増大セシ為
諸方面ヨリ同時ニ襲撃ヲ實施スルヲ有利トスルモ複雑ナル
行動ノ計畫ハ之レヲ避クルヲ要ス尚方向ノ誤謬時間ノ齟齬
ヲ防ク為メ各隊ハ目標ノ最近距離ニ散在シアルヲ要ス
第八百三十四 襲撃不成功ノ場合ニ於ケル集合地莫ハ隨時之
レヲ定ムヘシ若シ不成功ノ後敵ノ追撃ヲ受ケタルトキハ諸
方面ニ離散シタル後隊定ノ集合地莫ニ集合スヘキモノトス

共和國革命軍ソヴェト會長兼人民軍事部コミサール、エルト口
イツキー

欠

式樣書告報 (1)

附錄第一

本令第三十五

宛名
 何年何月何時何分
 紳 No 誰ヨリ (寄送地名)
 級 用
 半寸
 地圖縮尺何何

約四寸半

欠

式樣筒封 (四)



備考

(一) 封筒及報告用紙ハ湿润セ

サルモノヲ用フヘシ

(二) 括弧内ノ文字ハ印刷セザルモノトス

歩度ノ記号

× 五足ヲ以テス

×× 可成迅速ヲ以テス

附録第二

遊動郵便、設置及ヒ勤務規程

- 一、遊動郵便トハ各司令部間又ハ司令部ト部隊間ヲ連絡スル常規ノ方法ナリ
- 二、遊動郵便ハ他ニ連絡法ノ設ケナキ場所ノニテラス技術連絡法実施ノ場所ニ於テモ亦技術連絡破損セラルルモ連絡ノ中絶ヲ来サザラシムル為メ之ヲ設クルモノトス
- 三、遊動郵便ハ騎兵若クハ村落ニ於テ雇用セル車輛、或ハ連絡隊ニアル自轉車又ハ自働自轉車兵ヲ以テ其任務ニ服セシム
- 四、遊動郵便ノ各線路ハ特種ノ線路長(其地ノ名称ヲ冠ス)ニ隸屬シ線路長ハ遊動郵便ノ設置ヲ命シタル者該連絡指揮官ニ隸屬ス
- 五、著シク線路ノ延長セル場合ニテリテハ之ヲ郵便区ニ区分ス各郵便区ハ特種ノ郵便區長ノ指揮ニ屬ス區長ハ線路長之ニ任命ス
- 六、郵便線路ハ各哨所ヨリ成ルモノトス

七、各郵便哨間ノ距離ハ線路設置、為ノニ有スル資材、及其總延長ト線路ノ必要ナル程度並道路ノ状態等ニ依リ之レヲ定ム
騎兵哨ニアリテハ其距離ヲ五露里乃至十五露里車輛又ハ自轉車哨ハ十露里乃至二十五露里自動自轉車哨ハ四十露里乃至五十露里トス

八、哨所ノ兵カハ遊動郵便實施ノ期間通信ノ數及ヒ其危險ノ程度ニ應ジ之レヲ定ム

通常騎兵哨ニアリテハ各方ノ交代ヲ三名ツツトシ六名ヲ以テ之ニ任シ車輛哨ハ各方ノ交代ヲ二台以上トシ自轉車哨及自動車哨ハ一台若シリニ台ヲ以テス其他尙各哨所ニ哨所長一名ヲ置ク

九、哨所ノ位置ハ地圖ニ依リ標記シ各哨ノ配置ハ線路長之レヲ行クモノトス其際各哨所ノ哨兵ヲレテ昼間ノミヤラス暗夜ニ於テモ亦善ク隣哨ニ至ル道路ニ習熟セシムルノ事候ヲ講セシムヘシ

十、若シ線路數正ニ正分セラルトキハ各正長ハ前條ノ規定ニ從ヒ其作業ヲ各正ノ哨所ニ配當シテ哨所ニ位置スヘシ

十一、線路長ハ連絡長ノ指揮ニ依リ線路ノ管理ニ便ナル個所若クハ連絡長ノ許ニ位置スヘシ
線路正長ハ線路長ノ指示ニ從ヒ自己擔任ノ區内ニ配當セラルルモノトス

十二、哨所ハ線路ノ通スル道路若シリハ其路側ニ配當セララルルモノトシテ独立家屋若シクハ之ヲキキ住民地ニ設クルヲ可トス
若シ敵ニ對スル顧慮アル地方ニ於テハ哨所ヲ蔭蔽スルヲ要ス之ヲ為道路ノ側方ニアル自然ノ境界地ニ配當スヘシ又短期間遊動郵便ヲ設置スル場合ニアリテハ自然境界地ヲ利用スルモノトス
十三、線路ヲ監視シ且通信送送者ニ哨所位置ヲ指示スル為メ當直衛兵ヲ派遣ス

十四、哨所ニ在ル殘餘ノ兵員ハ休息シ順番ニ當ル傳騎ノ馬匹ニハ鞍ヲ置キ嚮ヲ外シ又順番ノ車輛ニハ繫馬シ自轉車及ヒ自動自轉車ハ全準備ノ姿態カニアルヘキモノトス

十五、哨所長ハ哨所ヲシテ不意ノ敵襲ニ依リ捕獲セサレサル事候

第二様式

| | | |
|---------------------------|----|--------|
| 遊動郵便 | | 何処何処線 |
| 何哨 | | (何村) |
| 傳騎 | | 何某 |
| 書簡教 | 何哨 | 記 事 |
| 及ヒ | 何哨 | |
| 其番号 | 何日 | 何時 |
| 三、 | 何日 | 何時 |
| 步兵第二師團 司令部第五 一八、一六号 | 何日 | 何時 |

附録第三

敵ノ兵力及ヒ行動ヲ判定シ得ル兆候

巧ニ蔭蔽セラレタル場合ニアリテハ屢々不明ナル兆候モ亦時トシテ却テ敵ノ所要ナル情况ヲ曝露スルコトアルヲ以テ諸種ノ方法ニ依リ獲得セル情報ハ綿密ニ之ヲ記載シ秩序的ニ調査セサル可カラス

一、敵地ニ於ケル住民ノ状況特ニ我ニ對スル敵意ノ有無ヲ認識スルヲ緊要トス住民ニシテ我カ為ニ種々ナル斡旋ヲ為スハ敵意ナキヲ示シ之ニ及シテ興奮シ高業ヲ停止シ村落ヲ去ルハ戦用ヲ期待シ居ルヲ表ハスモノニシテ又彼等ノ尊大不遜ナルハ有力ナル敵ノ接近ヲ表示スルモノトス

二、敵若シ舍營野營等ニアリテ休息シアルトキハ野戰電信線ノ方向電柱設置ノ個所監視所被服ノ楯式頭上ノ裝飾制服ノ相違炊爨ノ煙及其ノ天映燈火天幕巡邏兵并候偵察隊等ノ派遣時刻ト其方向敵ノ使用スル各種ノ信号及ヒ時計新形式ノ衣服ノ出現

機材木材、梯子、船舟等、蒐集、有無等ヲ認識シ敵ノ配置地兵ヲ知ルヲ緊要トス

三、敵運動ヲ起シタルトキハ縱隊ノ長徑部隊ノ數、兵糧、輜重、運動速度、奔揚スル塵埃ノ高サ、武器、肉光ニ注意スル

四、住民地又ハ其他ノ地物ニ於テ防禦工事ニ從事スル敵作業ノ全般、敵作業隊ノ運動電信電話線ノ架設其他戰鬥準備ニ関スル敵ノ行動ヲ認ムルヲ必要トス

燈火ニ遭遇スルトキハ死傷者ノ被服ノ樣式ト其相違兵ヲ認識スルコト所要ナリ死傷者ヨリ手帳書簡地圖及ヒ其他ノ文書ヲ剽奪スルヲ要ス

五、敵ヲ追撃スル時ニ於テハ休息地兵ノ廣狹、其相互ノ距離、奔却ル村落又ハ野營ノ殘跡、人馬及ヒ輜重ノ跟跡（方向及ヒ新旧ノ別）路上ニアル破損車輛、斃馬墳墓、馬屍ノ肥瘠ト其背上ニ於ケル傷部ノ有無、周圍ニアル樹木損傷、有無、殘灰ノ新旧ト其量ノ多寡、橋梁破壞又ハ柵障構築ノ有無等ニ注意ヲ拂フ

附録第四

居民俘虜及ヒ逃走兵ノ訊問

居民俘虜及ヒ逃走兵ノ訊問ニ依リ貴重ナル敵ノ情況ヲ知ルコトヲ得ヘシ然レモ其口述ニハ全然盲信スヘカラス特ニ敵意ヲ有スル居民及ヒ俘虜ノ口述ヲ然リトス

六、居民ヲ訊問スルハ電信郵便及ヒ鐵道ノ勤務員、醫師、僧侶、商人ヲ最モ可トス之レカ為メ可成十分ナル情況ヲ審カニセントスルニ概テ左ノ如キ事項ヲ訊問スヘキモノトス即チ住居、出奔地及ヒ出奔先、敵ニ對シ見聞セシ事敵ノ所在村落敵ノ前哨及ヒ作候ノ所在地、騎兵、歩兵、火炮及ヒ輜重車輛ノ數、敵軍隊ノ宿營スル天幕又ハ建造物、別其指揮官ト居所、建造物上ニ掲揚セル軍旗ト其數字又ハ文字並ニ色彩或ハ其有無、軍隊ノ通過セル個所ト其時間並ニ中断、有無着用セル軍服、軍帽、帶、色肩章、襟章、模樣及ヒ肩章、襟章ノ文字、番号、鐵道ノ狀況、一昼夜間ノ運轉回数ト主ナル輸送物、軍用電線ノ架設地、糧秣倉庫ノ所在地、兵卒ノ食物

物品ニ付スル金錢支拂ノ正否及ヒ其品名代價居民ニ付スル暴逆
ノ有無若シ戦陣アリトキハ其死傷者ノ数ト後送先等トス
二、俘虜及ヒ脱走兵ヨリ其携帶セル文書書簡全部ヲ押収シ審査
ノ為速ニ之ヲ上級本部ニ送致スヘシ
俘虜及ヒ脱走兵リ一名宛軍牒ニ之ヲ訊問スヘシ口述ノ多ク共相
合致セル矣ハ三宮ナルモトシテ判断シ得ヘシ
訊問要矣次ノ如シ即チ勤務セル部隊ノ如何(軍服軍帽ノ記事
武器認識標手帳親族ヨリ受領シタル書簡ノ表記ヲ検査ス司
令官及ヒ高級指揮官ノ姓名所屬部隊部隊ニ在ケル軍隊教員
種及ヒ砲教軍隊ノ配置個所ト其方法最後ノ宿营地矣先頭部
隊ノ運動ト行動ニ就キ聞知セシ事項食料給與ノ正否及ヒ其品
名給料支給ノ正否現役及ヒ後備兵ノ多少指揮官ノ部下ニ付
スル態度中隊ノ人馬數各兵ノ携帶スル彈藥殺傷病者ノ多
寡糧食菊株豫備ノ有無及ヒ其多寡等トシ尙其外觀ニ依リ
被服武器ノ有様ヲ視察シ外額ニ依リテ氣力疲勞空腹又ハ滿腹
ノ状態ヲ認ムルヲ要ス

地物ノ偵察

一、村落ノ偵察。騎兵休候ノ主力ハ其搜兵ヲ以テ村落及ヒ附近ノ偵
察ヲ為ササル間ハ村落ニ入ラサルヲ要ス
村落ノ偵察ニ方リテハ騎兵休候ハ其附近ニ於テ村落ヲ視察シ
得ル掩蔽地ニ駐止シテ行フモ要ス村落ノ偵察ニ要スル搜兵
ノ數ハ村落ノ大小(街衢ノ數)形状及ヒ騎兵休候ノ行進スル
道路ノ方向等ニ依リ定メラル
村落著シク横ニ延長セル場合ニ於ケル偵察ハ若干ノ搜兵ヲ以
テシ又村落騎兵ノ運動スル方面ニ縱ニ延長シテルトキハ搜兵ノ
連撃線ヲ以テス
搜兵ハ主要ナル街路及村落ノ兩側ニ散置セラレ村落ヲ偵察シ
タル搜兵ハ反村ノ縁端ニ出テ、休候長ニ暗号ヲ以テ(要スレハ
人ヲ派シテ)偵察ノ結果ヲ報告セムルニ若シ敵兵ナキ片ハ騎
兵休候ハ迅速ニ村落ヲ通過スヘシ

敵地ニ於テ居民敵意ヲ有スル場合乍候ノ兵ヲ僅方ナル場合又
「夜間」ニ在リテハ人質ヲ徴スルヲ有利トス之カ為捜兵三名
以下トス」ヲシテ最近ノ家屋内ニ入り密カニ居民ノ何人ナラ捕
乍候長ノ許ニ引致セシメ之ヲ審問 且ツ偵察ノ終ル迄抑留
ハシ

騎兵乍候ノ兵力若シ充分ナル時ハ其全員ヲ以テ綿密ナル村落
ノ偵察ヲ行フヘシ此際捜兵ヲ以テ豫メ村落ヲ偵察シ且ツ村落
ノ出口全部ヲ台領シタル後乍候ハ村内ニ入り居民ノ訊問(主
トシテ土地官憲ノ代表者)郵便電信ノ通信及ヒ金庫等ノ押収
ニ着手スヘシ村落ノ偵察中ハ何人トモ之ヲ外出セシムルコトナ
ク又乍候ノ全員ハ戦闘準備ヲ完全ナラシメアルヲ要ス

二、森林ノ偵察。偵察ノ順序ハ森林ノ廣狹通過ノ程度及道路小
徑ノ如何ニ依リ之ヲ定ムルモノトス
小ナル森林ハ捜兵ヲ以テ内部及ヒ側方ヲ偵察ス
仮令森林大ナラサルモ道路以外ノ通過困難ナルハ本道路

ト最近ノ側方道路並ニ林端ヲ搜索スヘシ
樹木稀薄ナル大森林ハ捜兵ノ連鎖ヲ以テ偵察シ尚要スレハ
乍候ノ全員ヲ以テ之ヲ行フヘシ而テ此連鎖ヲ形成スル騎兵
ハ速足ヲ以テ森林ヲ通過シ及針側ノ林端ニ駐止シ乍候長ノ
合図ニ依リテ集合ス

森林若シ廣大ニシテ且ツ側方ニアル道路ニ依リ其通過困難
ナルトキハ捜兵ヲ以テ主西ノ方向ヲ偵察スヘシ但シ其道路ニ
リ側方約百歩ノミトス斯ノ如キ道路ニ依リ派遣セラレタル
捜兵ハ乍候ノ通過スル期間ノ偵察ニ從事シ後乍候ノ主力
ニ合スヘシ而テ斯ノ如キ森林ニ於テハ乍候ハ入口ノ前方林端ニ
シテ若シ之ヲ許セハ乍候ノ運動スル方向及ヒ其側方數百
歩ノ間ハ豫メ之ヲ偵察スルヲ要ス

三、隘路偵察ノ場合ニアリテハ捜兵中ノ一名ハ迅速ニ之ヲ通過
シ他ノ捜兵ハ最近ノ迂迴道路ヲ経テ搜索シ乍候ハ隘路ノ入口
附近ニ駐止スヘシ敵若シ現出セサル時ハ捜兵ハ村落偵察ニ就キ
一三